

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

国語

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3～8)

事例1

科目 現代の国語

単元 「美」を紹介しよう～感性を磨く～

「現代の国語」〔思考力・判断力・表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)アについて、実社会の中から美に関する話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全4単位時間、第3次構成)

(P. 9～14)

事例2

科目 現代の国語

単元 理想の修学旅行を紹介しよう

「現代の国語」〔思考力・判断力・表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)ウについて、集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全6単位時間、第3次構成)

(P. 15～21)

事例3

科目 現代の国語

単元 情報を適切に引用して、意見文を書こう

「現代の国語」〔思考力・判断力・表現力等〕の「B書くこと」(1)アについて、現代社会で必要とされる具体的な力について、体験や知識と関連付けながら題材を決め、情報を適切に引用して、自分の意見を論述する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全8単位時間、第3次構成)

本事例では、ワークシート①及びワークシート②を巻末に付している。

(P. 22～27)

事例4

科目 現代の国語

単元 「日直の仕事」をマニュアル化して転校生に伝えよう

「現代の国語」〔思考力・判断力・表現力等〕の「B書くこと」(1)ウについて、読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文を書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文を書いたりする言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全6単位時間、第3次構成)

(P. 28～36)

事例5

科目 現代の国語

単元 目的に応じて、情報を関連付けて内容を解釈しよう

「現代の国語」〔思考力・判断力・表現力等〕の「C読むこと」(1)イについて、図表を伴う文章を読み比べ、評価した内容をワークシートにまとめたり、気付いたことをグループで述べ合ったりする言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全5単位時間、第3次構成)

本事例では、ワークシートを巻末に付している。

(P. 37~43)

事例6

科目 言語文化

単元 日本文化のよさや味わいを吟味しよう

「言語文化」〔思考力・判断力・表現力等〕の「A書くこと」(1)アについて、日本文化のよさや味わいを吟味し、プレゼンテーションソフトでまとめる言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全5単位時間、第3次構成)

本事例では、ワークシート①及びワークシート③を巻末に付している。

(P. 44~48)

事例7

科目 言語文化

単元 自分の思いを相手に効果的に伝えよう

「言語文化」〔思考力・判断力・表現力等〕の「A書くこと」(1)イについて、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫しながらクラスの魅力を伝える言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全5単位時間、第3次構成)

(P. 49~54)

事例8

科目 言語文化

単元 叙述から、筆者のものの見方・感じ方・考え方を読みとろう

「言語文化」〔思考力・判断力・表現力等〕の「B読むこと」(1)イについて、古文の文学的な文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方についてワークシートにまとめたり、グループで話し合ったりする言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。(全7単位時間、第3次構成)

国語科 事例1 (現代の国語) 「A話すこと・聞くこと」

「目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。」

単元名

「美」を紹介しよう～感性を磨く～

内容のまとめり

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」

1 単元の目標

(1) 主張と論拠など情報と情報との関係について理解できる。

〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討できる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

実社会の中から美に関する話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)エ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)	実社会から適切なテーマを決定し、粘り強く検討することを通して、自分のものの見方、考え方を深め、聴衆の理解が得られるよう自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全4単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 「美」に関する四種類の評論文について、筆者の主張及び論拠をワークシートにまとめる。 ○ 同種の評論文を担当した者同士でグループ1を作り、筆者の主張とその論拠についてワークシートにまとめた内容を互いに発表する。その後、評論文の筆者の主張と論拠をグループ1で話し合う。 ○ 自分の担当外の評論文を全て読む。 ○ 別評論を担当した生徒とグループ2を作り、グループ1で話し合った内容を互いに発表する。 ○ 「日本人の感性・感受性に基づく美」について、評論文の筆者の主張をグループ2内でまとめる。 	[知識・技能]	「記述の点検」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本人の感性・感受性に基づく美」について、自分の主張を伝えるために、スライドにまとめ、発表するという学習課題について知る。 ○ 「日本人が美しいと感じているもの・こと」、「日本人の感性・感受性」についてグループ2内で列挙し、その妥当性を話し合う。 ○ 主張（発表テーマ）を決定する。 ○ 主張（発表テーマ）を支える根拠の情報収集のやり方についてのどのようなものがあるか話し合い、それらのやり方に関しての長所・短所を理解した上で情報を収集する。 ○ 収集した情報を整理・検討した上で、伝え合う内容について、主張の根拠と理由付けが十分備わっているか吟味する。 	[思考・判断・表現]	「記述の分析」
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表に関するスライド、原稿を作成する。 	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 「美」に関する四種類の評論文について、筆者の主張ならびに論拠をワークシートにまとめる。 <p>①山崎正和『水の東西』（『混沌からの表現』） ②高階秀爾『日本人の美意識』（『日本近代の美意識』） ③谷崎潤一郎『陰翳礼賛』 ④長谷川權『和の思想』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の姉妹校と互いの国の「美」について発表し合う活動を通して、異文化理解を深める活動であることを確認する。 ・ 各自に一種類ずつ割り振り、筆者の主張とその論拠を読み取るよう指示する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同種の評論文を担当した者同士でグループ1を作り、筆者の主張とその論拠についてワークシートにまとめた内容を互いに発表する。その後、評論文の筆者の主張と論拠をグループ1で話し合う。 ○ 自分の担当外の評論文を全て読む。 ○ 別評論を担当した生徒とグループ2を作り、グループ1で話し合った内容を互いに発表する。 ○ 「日本人の感性・感受性に基づく美」について、評論文の筆者の主張をグループ2内でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①, ②, ③, ④各4人 ・自分のまとめとグループ内で話し合った内容を、後に他グループで責任を持って話せるように自覚を促す。 ・三種類の評論文について、読み取った「美」に関する内容は簡略的にメモを取らせる。 ・①, ②, ③, ④4人で1グループ。 ・グループ1で話し合った内容を発表する際、聞き手には簡単にメモを取らせ、発表後に質問するよう促す。 	<p>[知識・技能] 「記述の点検」<u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解しているかを点検する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本人の感性・感受性に基づく美」について、自分の主張を伝えるために、スライドにまとめ、発表するという学習課題について知る。 ○ 「日本人が美しいと感じているもの・こと」、「日本人の感性・感受性」についてグループ2内で列挙し、その妥当性を話し合う。 ○ 主張（発表テーマ）を決定する。 ○ 主張（発表テーマ）を支える根拠の情報収集のやり方にどのようなものがあるか話し合い、それらのやり方に関しての長所・短所を理解した上で情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前次まで学習した内容を振り返るよう促す。 ・クラス内での発表後には、スライドと原稿を英語に直し、外国人に発表することも伝える。 ・発表時間が1分間である点にも留意するよう促す。 ・前次で確認した「美」や「感受性」以外の例がないか話し合わせる。 ・列挙後、「美」と「感受性」に相関関係があるか確認させる。 ・挙げられた例が日本人に特有なものなのか確認させる。 ・グループ2内で話し合った内容を参考に、個人ごとに主張（発表テーマ）を検討し、決定するよう促す。 ・日本の文化を知らない外国人にも理解できる内容となっているかにも注意するよう促す。 ・思考ツール（マトリクス）を使用して調査法の長所、短所を把握させる。 ・把握した方法を用いて次時までに調査するよう促す。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の分析」<u>思考ツール</u>（<u>クラゲチャート</u>）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討しているかを分析する。

	○ 収集した情報を整理・検討した上で、伝え合う内容について、主張の根拠と理由付けが十分備わっているか吟味する。	<ul style="list-style-type: none"> 整理した情報について、各自が思考ツール（クラゲチャート）を利用しながら主張（発表テーマ）に対しての情報の適否及び十分かどうかなどを検討するよう促す。 主張と理由に関係があるか、主張が妥当な理由付けに支えられているか、適切な具体例であるか、相手が納得する内容になっているかなどに注意しながら検討するよう促す。 上記の点で判断に困ったり、理解できなかつたりする部分があれば、周囲の生徒に相談するよう促す。 	
3	○ 発表に関するスライド、原稿を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 各自のパソコンやタブレット端末などを使用してスライドと原稿を作成させる。 表現については、スライドと原稿を英語に直すことも想定しておくよう注意する。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕「記述の分析」<u>アンケートデータ機能によるデータ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 実社会から適切なテーマを決定し、粘り強く検討することを通して、自分のものの見方、考え方を深め、聴衆の理解が得られるよう自らの学習を調整しようとしているかを分析する。

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能]の評価

[知識・技能]の「主張と論拠など情報と情報との関係について理解している」状況を、「筆者の主張と論拠など情報と情報との関係について理解しながらワークシートに記入している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第1次に評価した。

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』（p78）では、「主張」について、「要求や依頼、批判や共感などを自分の意見として述べ、相手を説得したり納得させたりすることをねらいとするもの」、「論拠」について、「主張がなぜ成り立つかを説明するための根拠と理由付けのことであり、根拠のみならず、主張が妥当な理由付けに支えられていることを示すもの」と示されている。このことから、「主張」を「筆者の意見」、「論拠」を「根拠と理由付け」として示し、評論文①～④について、それぞれ「主張と論拠」を整理させた。

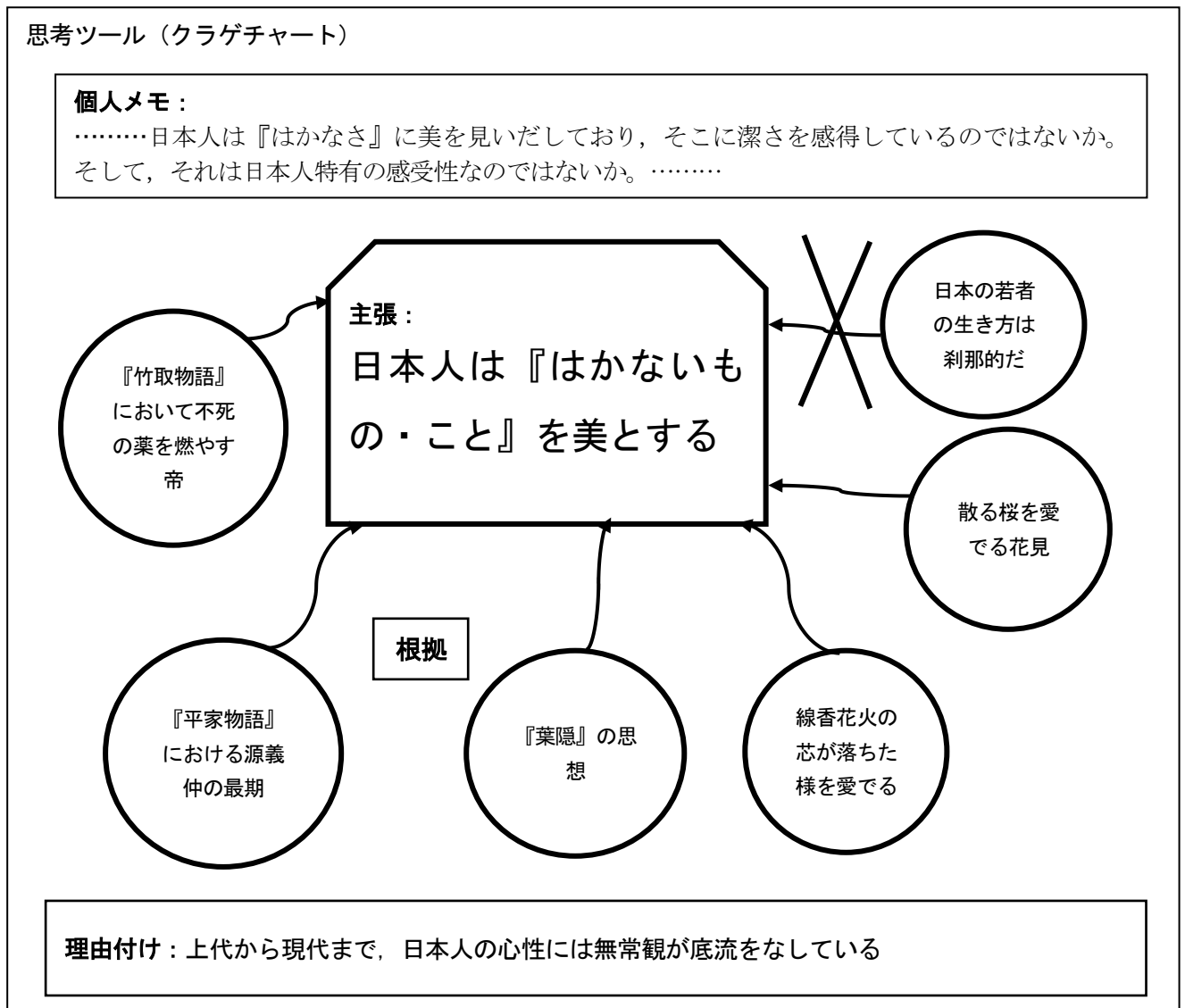
例えば、評論①（『水の東西』）を担当した生徒Dは、【ワークシートの記述】において、筆者の主張を「鹿おどしは日本人が水を鑑賞する極致のしかけだ」と捉え、論拠を「鹿おどしは水の流れを楽しむ仕掛けとして古来より日本において楽しまれており、形がないという水の性質を見えない水として、その本性のままに受け入れる日本人特有の美意識に合致しているからだ」と捉えた。読み取った筆者の主張に対し、歴史的背景から根拠を導きだすとともに、水の持つ本性を日本人はよく理解しながら受け入れ、そこに美を認めたという理由付けは妥当であり、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

(2) [思考・判断・表現]の評価

【思考・判断・表現】の『話すこと・聞くこと』において、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している」状況を、「海外の人々に対して、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討し、思考ツール（クラゲチャート）に記入している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。

例えば、生徒Eは、【思考ツール（クラゲチャート）の記述】において、「日本人は『はかなさ』に美を見いだしており、そこに潔さを感じているのではないかと。そして、それは日本人特有の感受性なのではないかと結論づけ、「日本人は『はかないもの・こと』を美とする」と主張（発表テーマ）を決定し、主張に沿って情報を収集・整理した。『竹取物語』において不死の薬を燃やす帝、『平家物語』における源義仲の最期、『葉隠』の思想」といった古典の世界に見られるはかなさ、「散る桜を愛でる花見」、「線香花火の芯が落ちた様を愛でる」といった現代における「はかなさ」など、収集した情報について、その適否や主張と理由の関係性、妥当な理由付けなどの観点から整理し、伝える内容を検討した。「日本人は『はかないもの・こと』を美とする」という主張を支える論拠を、歴史的な観点や具体的な態様から検討する中で、「上代から現代まで、日本人の心性には無常観が底流をなしている」と理由付けた。こうしたことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

【生徒Eの思考ツール（クラゲチャート）の記述】



また、生徒Fは、【思考ツール（クラゲチャート）の記述】において、「日本人は色鮮やかなものを美とする」と決定した主張に沿って情報を収集・整理した。「襲の色目」、「日本の四季の風景」など様々な情報を収集したが、それらの具体例の中には「水墨画などでは淡い色彩が使用される」など「日本人の色鮮やかなものを美とする」という主張に沿わない情報もあったにも関わらず、自分の主張に沿うものだけを論拠としていた。このことから、収集した情報を十分に整理した上での論拠とは言えないと判断し、「努力を要する」状況（C）と評価した。Cと評価した生徒Fに対しては、類似点や対比点などをもとに、収集した情報を再整理することで浮かび上がる「日本人の色彩感覚」を検討し、場合によっては主張を変更することも重要であることを助言した。

（3）[主体的に学習に取り組む態度]の評価

[主体的に学習に取り組む態度]の「実社会から適切なテーマを決定し、粘り強く検討することを通して、自分のものの見方、考え方を深め、聴衆の理解が得られるよう自らの学習を調整しようとしている」状況を、『美』に関するテーマを決定し、粘り強く検討することを通して、自分のものの見方、考え方を深め、聴衆の理解が得られるよう自らの学習を調整し、発表資料を作成したかどうかについて振り返り、アンケート機能を用いて入力している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3次に評価した。

主張と論拠などの情報と情報の関係の理解度、収集した情報の整理、検討で苦勞したことや工夫したこと、スライド作成にあたり注意したことの3点を評価した。

例えば、生徒Gは【アンケート機能の記述】内で、収集した情報を整理、検討するに際して「テーマに対する根拠の理由付けとして妥当かどうかを判断するとは、最初はどのようなことかよく分からなかったが、Hくんに助言を求めてその意味が理解できると、収集した情報の適否や理由として妥当かどうか判断できるようになるとともに、さらにその場で別な情報も端末を使用して調べ、妥当な理由付けかどうか検討することで、自分の視野が広まった。」との記述から、粘り強く検討することで視野が拡大し、自己のものの見方が深まったことを読み取ることができる。また、作成した発表スライドに関して「自分としては必要な情報を網羅した内容になったと思ったが、I君に確認をお願いすると、内容は確かによく読めば理解できるけれど、一度に頭に入ってこないの、すべてを文章で書くのではなく箇条書きにすると良い、というアドバイスを受けて、話の要点を箇条書きにし、要点以外は発表する際に自分の言葉で補うようにした。」と聴衆の理解が得られるよう軌道修正したことが記述されており、自らの学習を調整しながらよりよいスライドを作成しようとしていたことを読み取ることができた。こうしたことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

国語科 事例2（現代の国語）「A話すこと・聞くこと」

「話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫すること。」

単元名

理想の修学旅行を紹介しよう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

〔思考力，判断力，表現力等〕「A話すこと・聞くこと」

1 単元の目標

(1) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使うことができる。

〔知識及び技能〕(1)イ

(2) 話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕A(1)ウ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力，人間性等」

2 本単元における言語活動

集めた情報を資料にまとめ，聴衆に対して発表する。

(関連：〔思考力，判断力，表現力等〕A(2)エ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使っている。(1)イ)	「話すこと・聞くこと」において，話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	聴衆に対する発表を通して，話し言葉の特徴を理解し，相手の理解が得られるよう，表現を粘り強く工夫する中で自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全6単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や進め方を確認し，学習の見通しをもつ。 ○話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色をワークシートにまとめ，自分たちの発表に活かし，使えるようにする。 ○新聞記事を元にして，書き言葉を話し言葉に直す。	〔知識・技能〕	「記述の点検」
2	○聞き手によって，プレゼンテーションの際に気を付けるべき要素が異なる点を確認し，「相手に応じた分かりやすいプレゼンテーション」について考え，ワークシートにまとめる。 ○「理想の修学旅行をプレゼンする」というテーマに基づいて構成用ワークシートを作成し，発表資料（プレゼンター	〔思考・判断・表現〕	「行動の確認」

	<p>ション用ソフトを用いたフリップやスライド)を作成する。</p> <p>○ 構成用ワークシートを基に資料を作成後、本番を想定してグループで練習し、適宜改善を行う。練習の様子は各グループのICT端末で記録しておく。</p> <p>○ 本番の発表を行う。聞き手は、表現の工夫について評価する。</p>		
3	<p>○ 「相手に応じた分かりやすい説明のための表現の工夫」について、振り返りシートに記入する。</p> <p>○ 振り返りシートを基に、単元の学習で得た気づきをグループや全体で共有する。</p>	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<p>○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をワークシートにまとめ、自分たちの発表に活かし、使えるようにする。</p>	<p>・ 「理想の修学旅行」をテーマに、自分たちで相手を想定し、その相手の理解を得るために工夫を凝らし、発表を実践する活動であることを理解させる。</p> <p>・ まずは自分で両者の違いを考えさせた後、発表させて全員で共有し、共通項をまとめながら「話し言葉と書き言葉の特徴や役割の違い」について理解させる。その際にまとめておきたい観点としては、例えば以下のような観点が考えられる。</p>	
	<p>それぞれの言葉と特徴や役割の違い：</p> <p>● 「話し言葉」</p> <p>……相手の反応やその場の状況を見ながら、相手とのコミュニケーションが成立するようにその場で工夫できる言葉。繰り返しや省略を頻繁に行うのみならず、話す速度や声の調子、身振りや表情など、言葉以外の手段でも伝えたいことを補う工夫をすることができる。</p> <p>● 「書き言葉」</p> <p>……客観視や推敲を加え情報を整理し、読み手に確実に情報を届けるために正確で説得力のあるように工夫できる言葉。省略や繰り返しをすることなく、書き手の目的や意図に応じて言葉を順序良く組み立てることで、書き手がその場に居なくとも、その意図が誤りなく伝わるよう工夫をすることができる。</p> <p>表現上の違い：</p> <p>① 「ら抜き」「い抜き」「さ入れ」「れ足す」言葉</p> <p>② 「敬体」「常体」の別</p> <p>③ 「略語」「口語的／文語的語彙の使い分け」</p>		
	<p>○ 新聞記事を元にして、書き言葉を話し言葉に直す。</p>	<p>・ 前項で確認した両者の違いを前提に、書き言葉の典型例である新聞記事を元にして、それを友人に伝えることを想定した、話し言葉による「原稿」を作らせる。</p>	<p>[知識・技能]</p> <p>「記述の点検」</p> <p>原稿</p> <p>・ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉</p>

			遣いについて理解し、使っているかを点検する。
	○ 聞き手によって、プレゼンテーションの際に気を付けるべき要素が異なる点を確認し、「相手に応じた分かりやすいプレゼンテーション」について考え、ワークシートにまとめる。	・「分かりやすい説明」のポイントを踏まえ、聞き手に応じて、反応や受け止め方が異なることを予想し、準備すべき要素が異なっていくことを全体で確認する。特に確認すべき観点としては、例えば以下のような観点が考えられる。	
	<p>「分かりやすい説明」のために：</p> <p>①自分が「目的意識」をもつ ……「何のために説明するのか」を前提として考えることで、説明する内容の詳細度及び用いる資料の明快度が定まる。</p> <p>②資料に「順序性」をもたせる ……「聞き手が話の流れを理解しやすい順序」を意識することで、「全体→部分」（例：京都・関西方面→滋賀県）や「時間経過」（例：過去の人気→現在の人気）のように、説明すべき順番が定まる。</p> <p>③プレゼンテーションの際の「相手意識」をもつ ……「説明する際の相手の立場」を意識することで、「用いるべき資料の視線（価値観）合わせ」はもとより、説明原稿における「語彙」や「ペース」、ひいては説明時の「声音」や「反応の伺い方」なども定まる。</p>		
	<p>「聞き手に応じた場合分け」：</p> <p>●相手を納得させる必要がある場合(例：対教員／対同作業に取り組む他のグループ) ……自分の考えの「根拠」を「客観的な資料」などを用いて明確に示す必要がある。</p> <p>●相手が発表内容に関する知識を持たない場合(例：対下級生) ……相手の理解できる「語彙」や相手の「価値観」に合わせた内容を考える必要がある。</p>		
2	○ 「理想の修学旅行についてプレゼンテーションを行う」というテーマに基づいて、構成用ワークシートを作成し、発表資料（プレゼンテーション用ソフトを用いたフリップやスライド）を作成する。	<p>・聞き手（聴衆）の想定は自分たちで決めさせることで、それに応じた表現の工夫について具体的に考えさせる。</p> <p>・発表する場所は教室にて一クラスの人数を相手にしたものになるため、その広さを想定した資料の文字の大きさを考慮させる。</p> <p>・電子ペン／レーザーポインター等のプレゼンテーション用機器に関しても、その機器が有する機能を踏まえ、聞き手の立場に立ってその有効性を考えさせ、使用を選択させる。</p> <p>・制限時間はグループにつき5分を設定する。</p> <p>・発表資料については、フリップやス</p>	

	<p>○ 構成用ワークシートを基に資料を作成後、本番を想定してグループで練習し、適宜改善を行う。練習の様子は各グループの ICT 端末で記録しておく。</p> <p>○ 本番の発表を行う。聞き手は、「話し手が想定した聞き手」になりきった上で、発表者の表現の工夫について評価する。</p>	<p>ライドなどを ICT 端末で作成させるが、ただの読み上げに終始しないよう、口頭での発表原稿の準備も行わせる。その際は、第1次で確認した「話し言葉」「書き言葉」の特色を踏まえさせることはもとより、スライドと発表原稿の対応・切り替えのタイミングなどの確認も行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習はグループごとに行わせ、その様子を ICT 端末で記録しておくことで、何度でも振り返ることができるようにさせる。 ・グループごとの練習の際は、第1次で確認した「相手に応じた分かりやすさ」の観点を意識して行うと共に、ICT 機器操作の方法や映すタイミングについても確認させる。 ・練習における聞き手は複数人で受け持つことで、良い点や悪い点を多角的に見つけられるようにし、より効率的な改善を行えるようにさせる。また、このやり取りの様子も記録させる。 ・ここまでの活動を踏まえ、それぞれが果たしてきた役割や貢献度合いを相互評価させ、本番での役割を含め構成用ワークシートに記入させておく。 ・本番は学級内でグループごとに行わせる。また、発表本番も ICT 端末で記録し、振り返り時の客観的な資料として用いられるようにしておく。 ・項目別に 5 段階で評価をつける「評価票」を用いることで、発表内容を客観的に数値化できるようにさせる。 ・特に、「話し手が想定した聞き手の立場として発表を聞いたと考えた時、分かりやすい発表であったか」については、その是非と理由を一言で述べさせることで、次の各グループでの振り返りに活用させる。 	<p>[思考・判断・表現] 「行動の確認」 <u>構成用ワークシート</u> <u>練習の様子</u> <u>発表の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫しているかを確認する。
3	<p>○ 「相手に応じた分かりやすい説明のための表現の工夫」について、振り返りシートに記入する。</p> <p>○ 振り返りシートを基に、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートでは、「自分たちが想定した聞き手」の理解を得るために、第2次において意識・準備したことと、練習と本番を経験して、実際に理解が得られた感触があったか、それが評価票に反映されているかということについて振り返るよう促す。 ・今回の経験を踏まえ、自身が今後心 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の分析」 <u>振り返りシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴衆に対する発表を通して、話し言葉の特徴を理解し、相手の理解が得られるよう、表現を粘り強く工夫する中

	単元の学習で得た気付きをグループや全体で共有する。	掛けたいことについても記入させる。特に、他者の発表から得た気付きがあればそれを具体的に挙げさせる。	で自らの学習を調整しようとしているかを分析する。
--	---------------------------	---	--------------------------

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] の「話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使っている」状況を，「話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色の違いを踏まえ，新聞記事を元に書き言葉を話し言葉に直している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え，第1次に評価した。評価にあたっては，次のような「原稿」を作成させ，記述の点検を行い，評価した。

【生徒Dの原稿記述例（一部分）】

◎次の新聞記事を，「友人」相手に分かりやすく伝えることを目的に，「話し言葉」の原稿に直してみよう！

※注意①：この新聞記事をやピア相手に見せないこと

※注意②：既に学んだ「話し言葉」の特徴を意識したうえで作成すること

「ヤングケアラー」……いわゆる，通学等自分のやるべき事を果たしながら，その一方で家族の介護や世話をする子どもたちの存在が，無視できない大きな社会問題になりつつある。自分の時間を奪われるのみならず，ケアの大きな負担を強いられることにより，精神的に疲弊するだけでなく，学業や進路選択にも様々な問題が起きると言われているためだ。（中略）既に行われている中高生への同様の調査によると，家族のケアを始めた年齢は中学2年生で平均9.9歳，全日制高校2年生で平均12.2歳という結果が出ている。その更なる実態を把握するため，政府は今年度一杯を目標に，全国の小学生を対象とするアンケートを行う方針を固めた。

（『●●新聞』●年●月●日）



<記述欄>

学校に行きながら家族の介護とか世話をする子どもたち，そういうのをヤングケアラーって言うらしいんだけど，知ってた？ちょっと考えただけでも，それってすごい大変だよな。（中略）

前に中学生や高校生相手にはアンケートとってみたいんだけど，めっちゃ早くケアを始めなきゃならない人が多かっただけで，じゃあ小学生はどうなのかってのを知るために，政府がアンケートをやるんだってさ。

この生徒Dは新聞記事を元に，客観的な分かりやすさを担保する具体的な数値は消してしまっているものの，相手が同級生であることを想定した上で，「話し言葉」の特徴である省略や繰り返しを用いつつ，い抜き言葉や口語的な表現を含め的確に書き直している。このことから，この生徒は「おおむね満足できる状況」（B）と判断した。

なお，「話し言葉の特徴を踏まえられず，多少言葉を省いただけの新聞記事の焼き直しになってい

る」生徒を、「努力を要する状況」(C)と判断した。Cと評価した生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、①「新聞記事を一文毎に分けて直させる」②「前に出てきた言葉を代名詞や指示語で表現できないか考えさせる」③「難しい単語や表現を分かりやすく言い換えさせる」といった作業を行わせ、再検討するように助言を行った。

(2) 【思考・判断・表現】の評価

【思考・判断・表現】については、第1次で確認した【知識及び技能】を活用して、課題を解決するなどのために必要な【思考・判断・表現等】を身に付けているかどうかを評価する。

「『話すこと・聞くこと』において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している」状況を、「自分たちが想定した聞き手に合わせ、発表する環境を踏まえて原稿・発表資料・使用機器等に工夫を加えることで、相手の理解を得ようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、第2次に評価した。評価にあたっては、「構成用ワークシート」に記入させた自分の役割やその貢献度合いの相互評価に基づいて個人を評価することをベースに、本番における「発表の様子」だけではなく「練習の様子」も動画で提出させることで、練習時の反省において悪い点を見つけ出し、そこから本番に至るまでにどのような工夫や改善を図っているか行動の確認を行い、併せて評価した。

(3) 【主体的に学習に取り組む態度】の評価

【主体的に学習に取り組む態度】については、「聴衆に対する発表を通して、話し言葉の特徴を理解し、相手の理解が得られるよう、表現を粘り強く工夫する中で自らの学習を調整しようとしている」状況を、「『評価票』に記載された他者からの評価や意見を踏まえ、自分たちの発表が想定した立場の聞き手にとって分かりやすいものであったかを振り返り、自らの表現手法の不足点を見だし、直そうと考えている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、第3次に評価した。評価にあたっては、各自に書かせた「振り返りシート」を基に、自身の学習に対する振り返りと気づきの有無について記述の分析を行い、評価した。

国語科 事例3 (現代の国語)「B書くこと」

「目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。」

単元名

情報を適切に引用して、意見文を書こう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕 (2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

1 単元の目標

- (1) 推論の仕方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)ウ
 (2) 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1)ア
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
 「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

現代社会で必要とされる具体的な力について、体験や知識と関連付けながら題材を決め、情報を適切に引用して、自分の意見を論述する。 (関連: [思考力、判断力、表現力等] B (2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
推論の仕方を理解し使っている。(2)ウ	「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。(B (1)ア)	学習の見通しをもって意見文を書くことを通して、自分の思いや考えが明確に伝わるよう、情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全8単位時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 単元の目標と進め方、言語活動の詳細及び評価の観点を把握し、学習の見通しをもつ。 ○ 現代社会の特徴と課題について推論し、ワークシートに記入する。 ○ ペアで推論の仕方を評価し合う。	[知識・技能]	「記述の確認」
2	○ 体験や知識と関連付けながら、現代社会で必要とされる具体的な力について考える。 ○ 主張を支える情報を、書籍、新聞記事、インターネット等から収集する。 ○ 収集した情報、情報から導き出される主張、情報と主張とを繋ぐ推論を、情報分析チャートに記入する。	[思考・判断・表現]	「記述の分析」
3	○ グループで、収集した情報の適切さを吟味する。 ○ グループ活動を踏まえ、意見文を書く。 ○ グループを組み替え、意見文を相互評価する。	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

	○ 本単元の活動全体を振り返り、成果と課題を挙げる。		
--	----------------------------	--	--

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 単元の目標と進め方、言語活動の詳細及び評価の観点把握し、学習の見通しをもつ。	・本単元の言語活動を以下の通り二つの活動に展開し、①と②の条件を満たしているかどうか、評価の観点となることを伝える。	
	<p>【本単元の言語活動】 現代の社会で必要とされる具体的な力について、 (1) 【条件①】 体験や知識と関連付けながら題材を決め、 (2) 【条件②】 妥当性や信頼性を吟味した情報を適切に引用し、自分の意見を論述する。</p>		
		・上記の言語活動の導入として「現代社会の特徴や現代社会が抱えている課題」について考察させるにあたり、まず、以下の通り、推論の仕方をプロジェクターとプリントを用いて、説明する。	
	<p>【演繹的な推論】…一般的な前提を、個別の事例に当てはめていく推論の仕方 (1) 【Aという特徴をもつ】 現代社会には【Bという課題】がある。 (2) 日本は、【Aという特徴をもつ】 社会である。 (3) したがって、日本には【Bという課題】がある。 【演繹的な推論の利点と留意点】…個別の現象の理解に適している。ただし、生きて働く様々な知識を身に付け、<u>正しい知識を個別の事例に適切に当てはめる必要がある。</u></p> <p>【演繹的ではない推論】…個別の事例から一般的な法則を導く推論の仕方 (1) 現代の日本には【C】という課題（特徴）がある。 (2) 現代の中国には【C】という課題（特徴）がある。 (3) 現代のアメリカには【C】という課題がある。 (4) したがって、現代社会は【C】という課題（特徴）を持つ。 【演繹的ではない推論の利点と留意点】…見えているもの・ことから、見えていないもの・ことや見えていないもの・ことについて考え、新しいもの・ことを見付けることに適している。ただし、導かれた結論（新しいもの・こと、法則）が常に正しいとは限らないため、<u>結論の妥当性を十分に吟味する必要がある。</u></p>		
	○ 演繹的な推論または演繹的ではない推論から導き出した現代社会の特徴と課題をワークシート①に記入する。 ○ 推論した内容をペアで共有するとともに、推論の仕方について評価し合う。	・推論の過程が分かるように、箇条書きをするよう指示する。 ・可能ならば、二つの推論の仕方を使ってみるように伝える。 ・本次の活動の評価対象は、「真理そのもの」の記述ではなく、「推論の仕方」を適切に駆使して真	[知識・技能] 「記述の確認」ワークシート① ・推論の仕方を理解し使っているかを確認する。

		理に至ろうとする「過程」の記述であることを強調する。	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験や知識と関連付けながら、現代社会で必要とされる具体的な力について考える。 ○ その力が必要であるという自らの主張を支える情報を、書籍、新聞記事、インターネット等から収集する。 ○ 収集した情報（事実と伝聞）、情報から導き出される主張、情報と主張とを繋ぐ推論を、ワークシート②（情報分析チャート）に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会が抱える課題を解決するために、または、これまでの社会とは異なる特徴をもった現代社会を生き抜くために、高校卒業後、就職したり進学したりと、新たなステージに進んだ将来の自分に対する提言として、本次の言語活動に取り組むよう指示する。 ・情報を収集するにあたり、情報の根拠としての適否（妥当性）や情報の正誤（信頼性）を吟味するように指示する。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の分析」ワークシート②（情報分析チャート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしているかを分析する。
<p>【情報を吟味するポイント】（例）</p> <p>(1) 情報の発信源の形態（新聞、書籍、雑誌、ウェブサイト）を確かめる。</p> <p>(2) 誰が、いつ、どこで発信した情報かを確かめる（著者の略歴・発信時期等）。</p> <p>(3) 誰に向けられた、どのような情報かを確かめる（読者層、一次情報か二次情報か等）。</p> <p>(4) 二次情報の出典にあたり、複数資料を用いて比較したりと、自ら情報を確かめる。</p>			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで、それぞれが収集した情報の適切さを吟味する。その中で、他者から受けた疑問・助言、自らが気付いたこと・考え直したこと等をワークシート②（情報分析チャート）に記入する。 ○ グループ活動の成果が書き加えられたワークシート②（情報分析チャート）に基づいて、意見文を書く。 ○ グループを組み替え、新しいグループ2で意見文を読み合い、相互評価する。 ○ 本単元の活動全体を振り返り、ワークシート③（振り返り）に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者が意見文を評価する際に用いるルーブリック評価表を配布し、グループで情報の適切さを吟味する際に活用するように伝える。 ・相手の工夫や努力を積極的に評価した上で、相手に疑問を呈したり、助言をしたりするように注意させる。 ・グループ活動の中で気付いたこと・考え直したことは、自らの考えの深まりを視覚化するため、朱書きするように指示する。 ・振り返りの際には、学習課題に沿って、目標の達成状況の評価するように促し、自己評価の論 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の分析」ワークシート②（情報分析チャート）、意見文、ワークシート③（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって意見文を書くことを通して、自分の思いや考えが明確に伝わるよう、情

		拠や今後の活動に生かしたい点、今後改善したい点等も記述させる。	報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしているかを分析する。
--	--	---------------------------------	---------------------------------

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] の「推論の仕方を理解し使っている」状況を、「現代社会が抱える課題や現代社会に特徴的な事象・価値観・関係性等を捉えるために、演繹的な推論または演繹的ではない推論をしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第1次に評価した。評価にあたっては、ワークシート①を配布し、記述の確認を行い、評価した。

例えば、次の【生徒Dのワークシート①の記述の一部】において、生徒Dは、まず、「演繹的な推論の仕方」を活用し、一般的な前提を個別の事例に当てはめて、現代社会の特徴や課題を捉えようとしている。次に、「演繹的ではない推論の仕方」を活用し、同種の個別の事例から一般的な法則を導き出そうとしている。さらに、「演繹的ではない推論」によって辿り着いた結論が本当に正しいかどうかを吟味する過程の中で、再度、個別の事例を集める必要性を記述している。二つの推論の仕方を理解して使っているのみならず、パワーポイントで授業者が示した「二つの推論の留意点」を踏まえ、導き出した結論及び用いた前提の妥当性を粘り強く吟味している跡がはっきりと認められる。このことから、「十分満足できる」状況（A）と評価した。

【生徒Dのワークシート①の記述の一部】

【活動1 推論の仕方を理解して使う。】

【問 現代社会とは、どのような社会か。また、現代社会には、どのような課題があるか。】

演繹的な推論	演繹的ではない推論
・グローバル化の進展している現代社会には、国際間のルール作りという課題がある。【一般的な前提】	
・日本では、経済連携協定が推進され、グローバル化が進んでいる。	・日本は、これまで24か国・地域と21の経済連携協定（EPA/FTA）等が発効済・署名済である。【個別の事例】
	【個別の事例】
・日本には、国際間のルール作りという課題がある。【個別の事例】 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/economy.html 外務省,経済外交,R3.11)	・日本は、二国間・多国間で知的財産権保護の強化のための様々な取組を行っている。【個別の事例】
	・グローバル化の進展している現代社会には、国際間のルール作りという課題がある。【一般的な法則???
	→ これは本当に現代社会の課題と言えるのか?
	→ 国際間のルール作りの必要性は、グローバル化の進展によって増している。しかし、現代に限った話ではないのではないか?
	→ 現代社会の特徴をもっと掘り下げ、課題についても要再検討。
▲グローバル社会には、国際間のルールづくりという課題がある。← 【正しい前提?】	グローバル社会とはどのような社会か?

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] の『書くこと』において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている」状況を、「現代社会が抱える課題を解決するために、または、これまでの社会とは異なる特徴をもった現代社会を生き抜くために、高校卒業後の自分に求められる力について、正誤や適否を十分に検討した情報によって理由付けながら書いている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。評価にあたっては、以下のようなワークシート②（情報分析チャート）を配布し、記述の分析を行い、評価した。

【ワークシート②（情報分析チャート）】

【活動2 情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。】

【情報】					疑問・助言
事実	伝聞	内容・出典等	正誤 ○△×	適否 ○△×	
				正誤と適否の評価に係る論拠	
【推論】					
【主張】					

例えば、【ワークシート②（情報分析チャート）】の【情報】の項目において、情報の「正誤」や「適否」を判断した論拠を十分に記述できていなかったり、情報の「正誤」や「適否」の判断が明らかに誤っていたりする生徒については、「努力を要する」状況（C）と評価した。

情報の「適否」を判断することができず、Cという評価を受けた生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、次のような指導を行った。

まずは、【ワークシート②（情報分析チャート）】の3段目の【主張】と、1段目の【情報】に注目させ、「演繹的な推論の仕方」や「演繹的ではない推論の仕方」を用いて、その関連を説明することができるかどうかを考えさせた。具体的には、取り上げた情報を自らの主張の事例や根拠と見なすことができるかどうか、自らの主張を情報に当てはめたり情報から主張を導き出したりすることができるかどうか、主張と情報の間に共通する要素を見出すことができるかどうか等を検討させ、できた場合は○、できなかった場合は×、判断に苦しんだ場合には△を、改めてワークシート②に朱書きさせた。次に、情報を○と判断した考察の過程を、【ワークシート②（情報分析チャート）】の2段目【推論】の欄に、詳細に記入するように助言した。（なお、△と判断をした情報がある場合には、3次のグループ活動で吟味するように指示した。）

一方、情報の「正誤」を判断することができず、Cという評価を受けた生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、【情報を吟味するポイント】を再確認させ、取り上げた情報が信頼できる要素を備えているか否かを判断するように助言した。

（3）【主体的に学習に取り組む態度】の評価

【主体的に学習に取り組む態度】の「学習の見通しをもって意見文を書くことを通して、自分の思いや考えが明確に伝わるよう、情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている」状況を、「自らの主張が導き出される過程や主張を支える根拠の確かさを粘り強く検討し、高校卒業後の自分に求められる力を明確に記述することができたかどうかを振り返っている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3次に評価した。

一方、活動に対する単なる感想や学習活動の記録に留まる生徒に対しては、自らの学習の調整をしたか否かをワークシート③（振り返り）からは読み取ることができないことから、「努力を要する」状況（C）と評価した。Cと評価した生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、学習過程を振り返るように助言し、ワークシート③（振り返り）を書き直させた。具体的には、第1次の活動を第2、3次の活動にどのように生かすことができたか、第3次のグループ活動を通して第2次の活動（情報分析チャート）をどのように見直すことができたか、第3次のグループ活動を、意見文を書くという活動にどのように生かすことができたか等について考えさせ、言語化させた。また、この考察の過程で改善点が見つかれば、併せて記述するように助言した。

【单元名】 情報を適切に引用して、意見文を書こう。

() HR () 番 氏名 ()

【本単元の言語活動】 現代社会で必要とされる具体的な力について、体験や知識と関連付けながら題材を決め、情報を適切に引用して、自分の意見を論述する。

【活動1 推論の仕方を理解して使う。】

【問 現代社会とは、どのような社会か。また、現代社会には、どのような課題があるか。】

演繹的な推論	演繹的ではない推論

【单元名】 情報を適切に引用して、意見文を書こう。

() HR () 番 氏名 ()

【本単元の言語活動】 現代社会で必要とされる具体的な力について、体験や知識と関連付けながら題材を決め、情報を適切に引用して、自分の意見を論述する。

【活動2 情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。】

【 情 報 】

事 実	伝 聞	内 容 ・ 出 典 等	正 誤 ○△×	適 否 ○△×	正誤と適否の評価に係る論拠

【 推 論 】

【 主 張 】

疑問・助言

国語科 事例4（現代の国語）「B書くこと」

「自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。」

単元名

「日直の仕事」をマニュアル化して転校生に伝えよう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」

1 単元の目標

(1) 個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)イ

(2) 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 (2)イ)	「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。(B(1)ウ)	手順書を書くことを通して、情報の妥当性や重要度の軽重に関する吟味の仕方について理解を深め、伝えたいことを明確にし、自分の考えを含め「日直の仕事」が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全6単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 具体例を抽象化する活動を通し、個別の情報と一般化された情報との関係を理解する。 ○ 言葉を用いて他者の行動を指示するために必要な要素を確認する。 	〔知識・技能〕	「記述の確認」
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手順書作成に関する学習課題を知り、題材について考える。 ○ 伝えたい内容を検討するとともに、その情報の主客の 	〔思考・判断・表現〕	「記述の点検」

2	<p>別や、文章／画像等の情報の示し方の工夫を考え、構成メモを作成する。</p> <p>○ 構成メモに基づいて手順書を作成する。</p> <p>○ グループで相互評価を行い、自分の手順書の改善に生かす。</p> <p>○ グループで一つ代表を決め、それを全体で共有し投票による評価を行うことで、「分かりやすさのための工夫」の気付きに繋げる。</p>		
3	<p>○ 単元の学習で得た気付きを確認用ワークシートに記述し、グループや全体で共有する。</p>	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
	<p>○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 具体例を抽象化する活動を通し、個別の情報と一般化された情報との関係を理解する。</p>	<p>・ 相手が知らないことを説明するための文章を作成することの社会的な必要性を考え、身近な例を挙げて気付きを共有するように促す。</p> <p>・ 相手に自分の考えを的確に伝え、その考えの通りに行動させるための手順書を作成する活動であることを理解させる。</p> <p>・ 「個別の情報」を複数挙げ、それぞれの情報から共通点を見いだして一つ概念にまとめることで、抽象的な「一般化された情報」を得る活動をさせる。その際に押さえておきたい考え方を以下にまとめる。</p>	
	<p>それぞれの「情報」の違い：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「個別の情報」 ……実体が明確だが他のケースにそのまま当てはめることのできないもの。 ● 「一般化された情報」 ……実体は明確ではないが全体的な傾向などが分かり、対策を立てる場合の目安を得ることのできるもの。 <p>注意を促したい点：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「上位語」「下位語」の関係とは異なる。 ② 共通点や傾向を探る「着眼点」をどう捉えるかが重要である。 ③ それぞれの情報を適切に関係づけることは、自分の考えの「妥当性」を高める。 		
1	<p>○ 言葉を用いて他者の行動</p>	<p>・ 「日直の仕事」として考えられることを全体で次々列挙させ黒板に示した後、共通項を見いだしながらまとめ、その項目名も自分で考えて付けるという個人活動をさせる。</p> <p>・ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、</p>	<p>[知識・技能] 「記述の確認」 <u>ワークシート</u></p> <p>・ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解しているか確</p>

<p>を指示するために必要な要素を確認する。</p>	<p>物事を説明する際の効果的な順序や構成の整え方、文体、レイアウト等を含む表現の仕方を全体で確認させる。特に確認すべき観点としては、例えば以下のような観点が考えられる。</p>	<p>認する。</p>
<p>①「説明の順序性」の工夫 ……「朝方の行動→夕方の行動」といった時系列に注目した順序 「概要（見出し）→詳細（内容）」といった階層に注目した順序 「上→下」「左→右」といった空間に注目した順序</p> <p>②「説明の客観性」の工夫 ……作成者の経験に基づく印象や感想で説明をしてしまうと、いつ、誰が読んでも同じ結果を得るための共通した情報になり得ないため、客観性を持った情報を用いるように心掛ける。 （例：「移動教室の際は、教室の施錠をちゃんと確認する」⇒× 「移動教室の際は、中庭側の窓及び廊下側の窓と通気口の施錠を確認する」⇒○）</p> <p>③「レイアウト」の工夫 ……「表」や「フローチャート」といった、情報量や流れを意識した「形式」の選択 文章ではわかりにくい位置関係を示すための画像など、使用する「情報」の追加 部外者には伝わらない、内部での慣用的な「表現」の言い換え 書体や文字の色、文の開始位置や配置といった「視覚的要素」の変更</p>		
<p>○ 手順書作成に関する学習課題を知り、題材について考える。</p> <p>○ 伝えたい内容を検討するとともに、その情報の主客の別や、文章／画像等の情報の示し方の工夫を考え、構成メモを作成する。</p> <p>○ 構成メモに基づいて手順書を作成する。</p> <p>○ グループで相互評価を行い、自分の手順書の改善に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「転校してきたばかりのクラスメートに日直の仕事を教える」ための手順書である、という前提を共有させる。 ・手順書はA4一枚に収めることを指示する。 ・手順書については、ICT端末で作成させるが、それを読むだけで完結する（＝作成者が追加の説明を行わない）ものになるよう、情報の取捨選択の留意を促す。 ・その情報が自分の学校特有の「個別の情報」なのかどの学校であっても通じる「一般化された情報」なのか、主観的な感想なのか客観的な情報なのか、文章で説明できるのか画像が必要なのか等の別を考えるよう促し、構成メモを作成させる。 ・第1次で確認した「形式」の別や「表現」の言い換え等を再確認させながら、実際に手順書を作成させる。 ・作成した手順書をグループ内で共有し、第1次で確認した各種工夫の観点 	

2	<p>生かす。</p> <p>○ グループで一つ代表を決め、それを全体で共有し投票による評価を行うことで、「分かりやすさのための工夫」の気付きに繋げる。</p>	<p>から相互評価を行い、自分の手順書の改善点を明確化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの共有・相互評価の様子はICT 端末で記録させ、自己改善のために何度でも振り返ることができるようにさせる。 ・前項の相互評価時点で一番良いと思うものをグループ内で決め、明らかになった改善点を踏まえて推敲した後の手順書を集約し、全体に提示する。 ・第1次で確認した項目に則し、各グループ代表の手順書の良い点を発表させ、全体で共有させる。 ・最終的に全員で投票を行い、一番優れていると思う手順書を決めた後、その「分かりやすさ」の工夫の要点を再度確認させると共に、そのやり取りの様子もICT 端末で記録し、振り返り時の客観的な資料として用いられるようにさせておく。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の点検」 <u>手順書</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫しているかを点検する。
3	<p>○ 単元の学習で得た気付きを振り返りシートに記述し、グループや全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫し、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう手順書を作成できたかを考えさせる。 ・他者と自分の「手順書」を比較検討し、「自分の考えを的確に伝えるため」に必要な要素を箇条書きで書かせ、それを第1次で確認した「一般化」の手法を再度踏まえて行わせることで、これからの学習活動に活かせるようにさせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の分析」 <u>振り返りシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順書を書くことを通して、情報の妥当性や重要度の軽重に関する吟味の仕方について理解を深め、伝えたいことを明確にし、自分の考えを含め「日直の仕事」が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしているかを分析する。

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

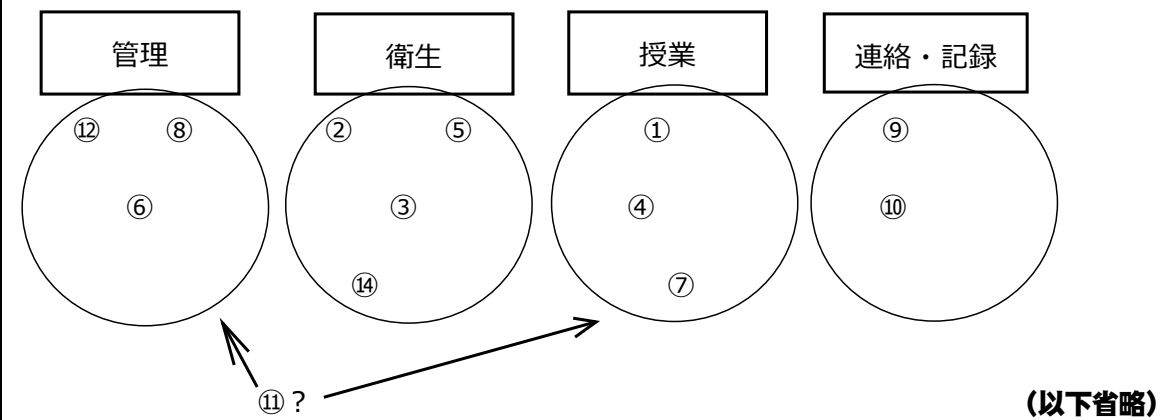
[知識・技能] の「個別の情報と一般化された情報との関係について理解している」状況を、「複数個の具体的な『個別の情報』に基づき、それぞれの情報から共通点を見いだして一つ概念にまとめ、抽象的な『一般化された情報』を得ようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第1次に評価した。評価にあたっては、次のような「ワークシート」に記述させ、その確認を行って評価した。

【ワークシートの記述例（一部分）】

1. 【日直の仕事を挙げてみよう】(番号を振ると次が楽)

- ①配布物を扱う ②号令をかける ③黒板を消す ④学級日誌を書く ⑤課題を集める
- ⑥教室の戸締りをする ⑦授業変更を確認する ⑧SHRの司会を担う ⑨換気を行う
- ⑩清掃状況の確認を行う ⑪朝の日直会議に参加する ⑫掲示物や机等整備を行う
- ⑬委員会への代理出席 ⑭教科担当が授業で使う道具の運搬補助 (以下省略)

2. 【上記の仕事を、共通項を見出してまとめ、その項目名も考えて記入しよう】



(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] については、第1次で確認した [知識及び技能] を活用して、課題を解決するなどのために必要な [思考・判断・表現等] を身に付けているかどうかを評価する。

「『書くこと』において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している」状況を、「個別／一般化・主観／客観の観点に基づく情報の取捨選択を行い、それを説明するための適切な形式を用いて表現している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。評価にあたっては、提出された「手順書」の点検を行い、評価した。

【生徒Dの手順書記述例（一部分）】

日直の仕事

《朝》

8時15分までに

- ・朝のSHR開始前に配布物を配る。急な授業変更など、連絡事項がある場合にはSHRで皆に伝える。
- ・クラスボックス及び返却机から配布物、学級日誌を持ってくる。
- ・職員室前の週番連絡黒板と授業変更黒板を確認する。

《授業開始前・授業終了後》

- ・休み時間のうちに黒板を消す。
- ・授業開始時と終了時に号令をかける。

《教室移動・集会の際》

- ・カーテンを開けて教室の各所をちゃんと施錠する。
 - ・戻った後は教室の鍵を開け、鍵を必ず返す。
- ※教室の鍵を早めに取りに行っておくこと！

《放課後》

- ・各清掃分担区に行きチェックをして、学級日誌に記入する。
- ・学級日誌を担当に提出する。
- ・教室の消灯と戸締まりを点検する。
- ・帰りのSHR前までに、クラスボックスの中や授業変更黒板を確認する。

この生徒Dは《朝》⇒《放課後》という時系列、つまり「説明の順序性」の一部には気を配れている。一方で、各時間帯内で行うべき行動の手順がバラバラであったり、「職員室」「クラスボックス及び返却机」「教室の各所を施錠する」などといった、転校してきたばかりで各部屋の場所や内輪的表現、教室内の施錠箇所が分からない相手にとっては分かりにくい、主観且つ「個別の情報」が文字だけで表現されたりしている。つまり、「説明の順序性」の一部分及び「説明の客観性」「レイアウト」における工夫が不足していると見なし、この生徒を「努力を要する状況」（C）と判断した。Cと評価した生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、①「第2次で確認した3つの工夫を再度確認する」②「自分が転校した側だとしたら、この手順書ではどこが分かりにくいかを列挙する」③「分かりにくい点を画像で代替したり、一般的な表現に書き直したりすることができなにか検討する」といった作業をするなどして修正するように助言を行った。

（3）【主体的に学習に取り組む態度】の評価

【主体的に学習に取り組む態度】については、「手順書を書くことを通して、情報の妥当性や重要度の軽重に関する吟味の仕方について理解を深め、伝えたいことを明確にし、自分の考えを含め『日直の仕事』が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「他者と自分が作成したそれぞれの『手順書』を比較しながら、その是非を基に『自分の考えを的確に相手に伝えるために必要な要素』を見つけ出し、一般化しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3次に評価した。評価にあたっては、各自に書かせた「振り返りシート」を用いて、自身の学習に対する振り返りとこれからの学習活動に活かせる点の発見について記述の分析を行い、評価した。

国語科 事例5（現代の国語）「C読むこと」

「目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考え方を深めること。」

単元名

目的に応じて、情報を関連付けて内容を解釈しよう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」

1 単元の目標

(1) 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めて使うことができる。

〔知識及び技能〕(2)エ

(2) 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考え方を深めることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

図表を伴う文章を読み比べ、評価した内容をワークシートにまとめたり、気づいたことをグループで述べ合ったりする活動。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

(例1) 環境保全等について述べた文章

教材例／『経済の論理／環境の論理』岩井克人

『わかっていること知らないこと』堀正岳

『どこもかしこもプラスチック!』中嶋亮太 等

(例2) 若者のSNS利用等について述べた文章

教材例／『ポスト・プライバシー』阪本俊生

『インターネット時代の音楽産業』吉見俊哉

その他教員が準備した文章

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めて使っている。(1)エ)	「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考え方を深めている。(C(1)イ)	図表を伴う複数の文章を読み比べて批評することを通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、目的に応じて、情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈することに向けて、粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全5単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 文章や図表等に含まれている情報について、情報が正しく確かであることの確認の仕方や、情報を用いる場合の留意点について理解する。 ○ 文章や図表等を複数盛り込んでいる3つの資料を読み、個々の情報の正しさや確かさを確認した上で、この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいかについて吟味し、ワークシートにまとめる。 	[知識・技能]	「記述の点検」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評論文を読み、図表等の複数の情報を関連づけることによって、読み手は筆者の主張をよりの確に捉えられることを理解する。 ○ 図表等を伴う複数の文章を読み、文章の構成や論理の展開について評価し、それぞれの文章の適否や善し悪しをワークシートにまとめる。 	[思考・判断・表現]	「記述の点検」
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価内容についてグループで読み合い、気づいたことを述べ合う。 ○ グループで話し合ったことを全体で発表し、共有する。 ○ 共有後、それぞれの文章に対する評価が変わった場合は、ワークシートを修正する。 ○ 単元全体を通した学習の振り返りを行い、情報を関連付けて読むことの効果や、読み手が目的や必要に応じて文章の中の情報を取り出して用いる場合の留意点等を理解し、自分の考えを深める。 	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 文章や図表等に含まれている情報について、情報が正しく確かであることの確認の仕方や、情報を用いる場合の留意点について理解する。 ○ 文章や図表等を複数盛り込んでいる3つの資料を読み、個々の情報の正しさや確かさを確認した上で、この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいかについて吟味し、ワークシートに 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を明確にし、学習方法などを説明し、各時間の終わりには振り返りシートに学習記録を記入し、振り返りをすることを伝える。 ・生徒に様々な図表等の情報を渡し、ICT 端末を用いて出典等確かめさせ、情報の正しさや確かさについて確認させる。 ・用いられている図表等の出典を確かめさせ、正確な情報として用いられる図表はどのような機関が発行したものか等について考えさせる。 	[知識・技能] 「記述の点検」 <u>ワークシート</u> ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めて使っているか点検する。

	まとめる。		
2	<p>○ 評論文を読み、図表等の複数の情報を関連づけることによって、読み手は筆者の主張をよりの確に捉えられることを理解する。</p> <p>○ 図表等を伴う複数の文章を読み、文章の構成や論理の展開について評価する。その後、それぞれの文章の適否や善し悪しをワークシートにまとめる。 (はじめに、特に立場を固定せずに、自由に評価する。次に、何らかの立場に立ってもう一度文章を評価する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図表を用いたことによって筆者の主張がどれだけ説得力を持つものになったかについて気づかせながら、筆者が読み手に捉えさせたいことを把握させる。 ・ 目的や構成の違う図表等を含んだ複数の文章を準備し、特徴の違いを生徒に意識させながら、批評し自分の考えを深めさせる。 ・ 読み手の目的の違いによっても、適否や善し悪しが変わってくることに気づかせる。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考え方を深めているかを点検する。
3	<p>○ 評価内容についてグループで読み合い、気づいたことを述べ合う。</p> <p>○ グループで話し合ったことをクラス全体で発表し、共有する。</p> <p>○ 共有後、それぞれの文章に対する評価が変わった場合は、ワークシートを修正する。</p> <p>○ 単元全体を通じた学習の振り返りを行い、情報を関連付けて読むことの効果や、読み手が目的や必要に応じて文章の中の情報を取り出して用いる場合の留意点等を理解し、自分の考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動ではワークシートに記入した適否や善し悪しについて根拠を持って説明するよう促し、自分とは違う捉え方があった場合はメモをとるよう指導する。 ・ 評価文を修正する際には、修正しようと思った理由についてもワークシートに記録させる。 ・ 振り返りの際には、単元を通じて考察したことについて、目標にそって振り返るよう促し、適切に情報を用いるように考えを深めさせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の分析」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図表を伴う複数の文章を読み比べて批評することを通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、目的に応じて、情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈することに向けて、粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかを分析する。

《本授業例における評価の実際》

筆者が自分の主張を客観的に根拠付けるために、図表やグラフを伴って説明する場合がある。ここでは図表を伴った3種類の文章を教師側が用意し、それぞれの筆者が自分の主張を根拠付けるために取り上げた図表はどのようなものかを比較して読ませながら、「読むこと」の資質能力を育成することとした。

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価 (プリント①参照)

[知識・技能] の「情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる」状況については、「情報の妥当性や吟味の仕方を理解し記述している」姿を(「おおむね満足できる」状況(B))と捉え、第1次に評価した。評価にあたっては、次のような作業シート(プリント①作業シート)を生徒に配布し、記述の点検を行い、評価した。

【生徒Aの作業シートの記述例(一部)】

教材1(題名 経済の論理/環境の論理)

図表・図表タイトルと出典(どのような機関であるか、調べたことも書こう)

「世界の平均気温の変化の予測(1986年~2005年を基準とした21世紀末の変化)」環境省
環境省とは、環境の保全・整備、公害の防止、原子力安全策を所轄する日本の行政機関。

・図表から読み取れる情報

現状を上回る温暖化対策をとらなかった場合は、100年後には26~48℃気温が上昇するが、対策をとった場合は0.3~1.7℃の上昇に抑えられる。

この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいか?

(ふさわしい・ややふさわしい・あまりふさわしくない・ふさわしくない)

・理由

この情報は「今のうちに何らかの対応をしないと、未来にどのくらい温暖化が進むか」を示しているため、筆者の「未来世代を取り巻く自然環境が、現代世代によって一方的に破壊されてしまう」という主張の根拠になっているから。

この生徒Aは、図表の出典を確認し、「環境省」であると調べて分かった。「環境省」は日本の行政機関であることから、この図表の情報は確からしいと判断した。また、読み取れる情報についての記載や、筆者の主張と根拠のふさわしさについても的確に述べている。このことから、この生徒は「おおむね満足できる状況」(B)と判断した。

(2) [思考・判断・表現] の評価 (プリント②参照)

[思考・判断・表現] については、第1次で確認した[知識及び技能]を活用して、課題を解決するなどのために必要な[思考・判断・表現]を身に付けているかどうかを評価する。

『読むこと』において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考え方を深めている状況を、「筆者の文章と図表の関連について、その図表が筆者の論理展開に効果的であるかどうかを評価し、気づいたことを的確にまとめている」姿を(「おおむね満足できる」状況(B))と捉え、第2次に評価した。なお、教師が評価する際に、生徒の思考の過程が分かるようなワークシートとした。

【生徒Bの確認シートの記述例（一部）】

教材1（題名 経済の論理／環境の論理）

・図表があることによって、本文の論理展開が分かりやすく伝わっているか → あなたの評価
(大変分かりやすい◎ 分かりやすい○ やや分かりづらい△ 分かりづらい×)



・評価の理由を書こう。

筆者の主張に対して、図表を用いて根拠として述べている。しかし、図表が1つしかなく「環境の論理」という面での主張の根拠づけはやや不足していると思う。複数の図表があったほうがより分かりやすかったのではないかと思い、評価としては「わかりやすい○」と判断した。

例えば生徒Bは、筆者の主張に対して、示された図表が根拠になっている点は認めながらも、複数の図表があればさらに根拠の助けになったのではないかと、自分の考えを深めている。これらから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

一方、「図表が本文に効果的であるかどうかの評価について、どのように判断したらよいか分からず、自分の考えを深められなかった」生徒を、「努力を要する」状況（C）と判断した。Cと評価した生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、「図表」が無かった場合の文章を想定してもう一度読み直すように促し、「図表」があることによって筆者の主張がどの程度的確に捉えられるようになったかをもう一度確認してから、「評価」するように助言した。

（3）[主体的に学習に取り組む態度]の評価（プリント④参照）

[主体的に学習に取り組む態度]については、「図表を伴う複数の文章を読み比べて批評することを通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、目的に応じて、情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈することに向けて、粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。」状況を、「図表を伴う複数の文章を読み比べ、その評価についてグループやクラスの発表を聞き、自らの意見と比較することを通して、自らの考えを多様な視点から見つめ直そうと取り組んでいる」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3次に評価した。一方、文章に対する単なる感想にとどまり、自らの学習を振り返ることができていない生徒については、「努力を要する状況」（C）と判断した。Cと判断した生徒については、「確認シート2-1・2-2」の記述を基に、友人の評価を聞いて気づいたことを見直しさせ、友人と自分の評価の違いやその違いが生じた理由を考えさせる等、再度、自らの学習について振り返らせ、この単元で学習したことを今後の学習や生活につなげるように助言した。

プリント① 作業シート

教材 1 (題名)

図表 ・ 図表のタイトルと出典 (どのような機関であるか, 調べたことも書こう)

・ 図表から読み取れる情報

この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいか?

(ふさわしい・ややふさわしい・あまりふさわしくない・ふさわしくない)

・ 理由

教材 2 (題名)

図表 ・ 図表のタイトルと出典 (どのような機関であるか, 調べたことも書こう)

・ 図表から読み取れる情報

この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいか?

(ふさわしい・ややふさわしい・あまりふさわしくない・ふさわしくない)

・ 理由

教材 3 (題名)

図表 ・ 図表のタイトルと出典 (どのような機関であるか, 調べたことも書こう)

・ 図表から読み取れる情報

この情報は筆者の主張の根拠としてふさわしいか?

(ふさわしい・ややふさわしい・あまりふさわしくない・ふさわしくない)

・ 理由

文章と図表の関係性，論理展開について評価しよう！

教材1

(題名)

・図表があることによって，本文の論理展開が分かりやすく伝わっているか → あなたの評価
(大変分かりやすい◎ 分かりやすい○ やや分かりづらい△ 分かりづらい×)

・評価の理由を書こう。

教材2

(題名)

・図表があることによって，本文の論理展開が分かりやすく伝わっているか → あなたの評価
(大変分かりやすい◎ 分かりやすい○ やや分かりづらい△ 分かりづらい×)

・評価の理由を書こう。

教材3

(題名)

・図表があることによって，本文の論理展開が分かりやすく伝わっているか → あなたの評価
(大変分かりやすい◎ 分かりやすい○ やや分かりづらい△ 分かりづらい×)

・評価の理由を書こう。



分かったことや気づいたことをまとめよう

プリント③ 確認シート2-1

文章と図表の関係性や文章の構成や論理展開について評価しよう！

教材1 (題名 _____)	
自分の評価をまとめよう (プリント①及びプリント②を参考にして、もう一度まとめよう)	
(_____) さんの評価	評価を聞いて気付いたこと
(_____) さんの評価	評価を聞いて気付いたこと
(_____) さんの評価	評価を聞いて気付いたこと
(_____) さんの評価	評価を聞いて気付いたこと

プリント④ 確認シート2-2

まとめ（活動を振り返って自分の考えをまとめよう）

資料1～3の評価について、グループで話し合ったことをまとめよう

（友人の発表を聞いて自分の評価を変更する場合は、その点もしっかり記載しよう）

資料1

資料2

資料3

本活動で身に付いたこと、気付いたことをまとめよう

本単元を学習し、今後の生活に向けて生かそうと考えたことをまとめよう

国語科 事例6 (言語文化)「A書くこと」

「自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。」

単元名

日本文化のよさや味わいを吟味しよう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「A書くこと」

1 単元の目標

- (1) 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。
〔知識及び技能〕 (1)ア
- (2) 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ア
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

言葉の働きによって生まれ、継がれ、発展してきた日本文化のよさや味わいを吟味し、プレゼンテーションソフトでまとめる。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。(1)ア)	「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。(A(1)ア)	学習課題に沿って、言葉の働きによって支えられている日本文化のよさや味わいを粘り強く吟味し、表現したいことを明確にしようとしている。

4 指導と評価の計画 (全5単位時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標と進め方、言語活動の詳細及び評価の観点を把握し、学習の見通しをもつ。 ○ 文化とは何か、辞書等で調べ、ワークシートに転記する。 ○ 文化の継承、発展、創造の違いをペアで話し合う。 ○ 言葉には、どのような働き(機能)があるか考察し、全体で知識を共有する。 ○ 文化の継承、発展、創造を支える言葉の働き(機能)について、具体的な文化を例示しながら、自らの考えをワークシートに記述する。 	〔知識・技能〕	「記述の確認」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化遺産としての日本語や言葉としての日本文化の例をワークシート(イメージマップ)に記述する。 ○ 取り上げる日本文化を決定する。 ○ 日本文化のよさや味わいをワークシート(L型マトリクス 	〔思考・判断・表現〕	「記述の分析」

	表)に記述する。		
3	○ プレゼンテーションソフトを用いて、日本文化のよさや味わいを伝えるスライドを作成する。 ○ 本単元の学習活動の振り返りを行う。	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 単元の目標と進め方、言語活動の詳細及び評価の観点を把握し、学習の見通しをもつ。	・本単元の言語活動を以下の通り三つの活動に展開し、単元の目標・評価基準を確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本単元の言語活動】の展開</p> <p>(1) 言葉の働きによって生まれ、継がれ、発展してきた日本文化の</p> <p>(2) よさ(文化的価値)や味わい(受け手に与える感慨や感動)を吟味し、</p> <p>(3) プレゼンテーションソフトでまとめる。</p> </div>		
1	○ 文化とは何か、辞書等で調べ、ワークシート①に転記する。 ○ 文化の継承、発展、創造の違いをペアで話し合う。ワークシート①に、話し合いを通じて確認された内容をメモする。 ○ 言葉には、どのような働き(機能)があるかを考察してワークシート①に箇条書きし、その後、グループ及び全体で知識を共有する。	・言葉もまた文化であり、それ自体が文化遺産として継承されていることに気付かせる。 ・可能な限り生徒たちの言葉で、言葉の働き(機能)の内実を捉えさせる。例えば、以下の働き(機能)が挙げられる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言葉の働き(機能)】例</p> <p>(1) 主情的機能 (2) 詩的機能 (3) 働きかけ機能 (4) 交話的機能</p> <p>(5) 指示的機能 (6) メタ言語的機能 (7) 内言語機能</p> <p>(平成28年3月3日 教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム 資料3より)</p> </div>		
2	○ 文化の継承、発展、創造を支える言葉の働き(機能)について、具体的な文化を例示しながら、自らの考えをワークシート①に記述する。	・言葉のどのような働きが、文化の継承、発展、創造を支えているかが、明確に分かる記述となるように指示する。	[知識・技能] 「記述の確認」ワークシート① ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解できているかを確認する。
	○ 文化遺産としての日本語や日本文化の例をワークシート②(イメージマップ)に記述する。 ○ 取り上げる日本文化を決	・学習の見通しをもって、アイデアを関連づけたり、イメージを広げたりすることが大切であることを伝える。	[思考・判断・表現] 「記述の分析」 ワークシート②(イメージマップ)、③(L型マトリクス表)

	<p>定する。</p> <p>○ 決定した日本文化の用例や題材のよさや味わいを、ワークシート③（L型マトリクス表他）に記述する。</p>	<p>・L型マトリクス表を用いて多角的に分析したり，比較したり，整理したりすることを通じて，選択した文化のよさや味わいを吟味するように指示する。</p>	<p>・「書くこと」において，自分の知識や体験の中から適切な題材を決め，集めた材料のよさや味わいを吟味して，表現したいことを明確にしているかを分析する。</p>
3	<p>○ プレゼンテーションソフトを用いて，(1)伝えたい日本文化，(2)そのよさや味わい，(3)よさや味わいを見出した根拠の3点をスライドにまとめる。</p> <p>○ 本単元の学習活動を振り返り，ワークシート④（振り返り）に記入する。</p>	<p>・構成をどうするか，何についての程度説明するか等を考え，表題と最大4枚のスライドでまとめるように指示する。</p> <p>・視覚情報を盛り込む等，表現上の工夫をするように指示する。</p> <p>・振り返り際には，学習課題に沿って，目標の達成状況を評価させ，評価の論拠や今後の活動に生かしたい点，今後改善したい点も記述させる。</p>	<p>「記述の分析」 ワークシート①～④，スライド資料</p> <p>・学習課題に沿って，文化の継承，発展，創造を支える言葉のよさや味わいを粘り強く吟味し，表現したいことを明確にしようとしているかを分析する。</p>

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

「知識・技能」の「言葉には，文化の継承，発展，創造を支える働きがあることを理解することができる」状況を，「文化の継承，発展，創造を支える言葉の働きを，具体的な文化を例示しながら説明している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え，第1次に評価した。

例えば，生徒Dは，【生徒Dのワークシート①の記述の一部】のように，具体例として「俳句」を取り上げ，連歌・俳諧から「生まれた文化」と捉えている。その上で，「俳句」と連歌・俳諧を比較し，付合が連続する前者と「五七五」の定型という後者の差異を指摘している。「俳句」の形式と連歌の発句の一致を重視し，生徒が指摘する差異を共通点として捉え直すこともできようが，言語の「詩的機能」に分類される「五七五」のリズムの前景化によって文化の継承，発展，創造が果たされたとする生徒の立場をはっきりと読み取ることができる。これらから，評価規準を満たしていると判断し，「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

【生徒Dのワークシート①の記述の一部】

○文化の継承・発展・創造は，言葉のどのような働き（機能）によって支えられているか，具体例を挙げながら，自らの考えを記述せよ。
俳句という日本文化の誕生には，言葉の「詩的機能」が大きな役割を果たしていると考えます。
一般的に，連歌から派生したのが俳諧，俳諧から派生したのが俳句だと言われる。俳句と連歌・俳諧の差異は様々あるが，その一つに五七五という定型があげられる。複数人で上の句と下の句を交互に詠み合う連歌・俳諧と比較して，より詳細な内容の伝達や内容的な広がりや生成という効果と引き換えに獲得した五七五の定型という特徴をもつ俳句は，リズムや形態に着目した機能である，言葉の「詩的機能」があって初めて生まれた文化と言えるだろう。
* 傍線等は授業者。（「具体例」を□で囲み，「局面」には傍線，「働き」には二重傍線を付した。）

一方，生徒Eは，【生徒Eのワークシート①の記述の一部】のように，文化の「継承」が，「指示的機能」という言葉の働きによって果たされることを明言している。しかしながら，「指示的機能」とは，具体的に，言葉のどのような働きを指すのか等の説明を欠いている。そのため，言葉が文化の「継承」

にどのような役割を果たしているかを読み取って評価することができない。このことから、言葉の働きを説明できていないと判断し、「努力を要する」状況（C）と評価した。言葉の「指示的機能」（言葉によって世界を解釈し、描写し、記録する機能）がアイヌ語の「継承」に貢献するという考え方や、「消滅の危機」という状況から言語による不可欠な働きかけを考察しようとする観点の斬新さは認めつつも、アイヌ語の「継承」に貢献する、言葉の「指示的機能」の具体的な説明を欠いていることを確認させた。Bを実現するための具体的な手立てとして、最初の一文や最後の一文に必要な説明を加えたり、書き換えたりするように助言した。

【生徒Eのワークシート①の記述の一部】

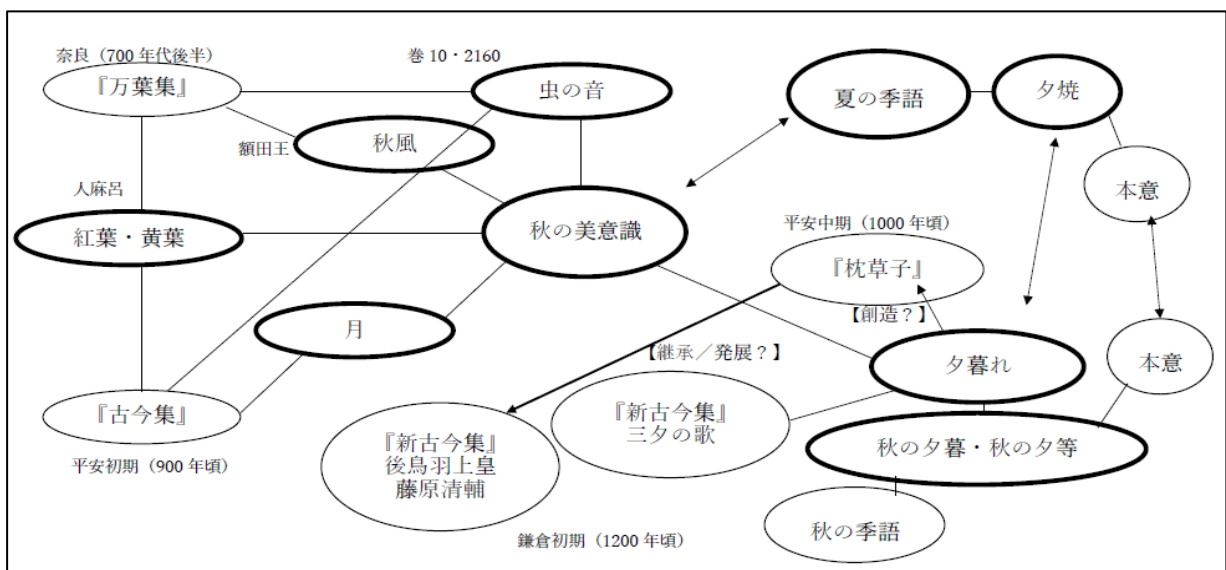
○文化の継承・発展・創造は、言葉のどのような働き（機能）によって支えられているか、具体例を挙げながら、自らの考えを記述せよ。
文化の継承は、言葉の指示的機能によって果たされる。例えば、ユネスコによって「最も消滅の危機に瀕している」と認定されているアイヌ語についてである。アイヌ語を継承していくため、文化庁は、各地で保存されているアイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化とアーカイブ作成を支援している。
* 傍線等は授業者。（「具体例」を□で囲み、「局面」には傍線、「働き」には二重傍線、Bを実現するために再検討を要する箇所には、○を付した。）

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] の『書くこと』において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている」状況を、「イメージマップでアイデアを広げて決定した題材（日本文化）のよさや味わいを、L型マトリクス表を用いて吟味し、ワークシートに要点をまとめている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。

例えば、次の【生徒Fのワークシート②（イメージマップ）の記述の一部】において、生徒Fは、自分の知識や体験から秋の美を5点（「虫の音」「秋風」「紅葉・黄葉」「月」「夕暮れ」）挙げ、同様の美を謳う用例と関連付けている。また、【生徒Fのワークシート③（L型マトリクス表）の記述の一部】において、生徒Fは、題材を定め、表現したいことを明確にするために情報を精選し、その用例（材料）のよさや味わいを他と比較しながら吟味している。このことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

【生徒Fのワークシート②（イメージマップ）の記述の一部】



【生徒Fのワークシートの記述の一部（L型マトリクス表）】

【本単元の言語活動】言葉の働きによって創造・継承され、発展してきた日本文化のよさや味わいを吟味し、プレゼンテーションソフトでまとめる。

【活動2 日本文化のよさや味わいを吟味する】

選択した日本文化		(有形) (無形)		秋は夕暮れ
自由に分割してください。→ ↓		比較・分析の観点		
		成立年代	本文・内容等	良さや味わいの考察等
比較対象	『枕草子』第1段 清少納言	平安中期 1000年頃	夕日のさして;あはれ(鳥の宿所へ行くとて、飛び急ぐ)、をかし(雁などの連ねたるが、小さく見ゆる) 日入りはてて; (風の音、虫の音など)	言うべき「あはれ」「をかし」を、「いふべきにある」ぬ「をかし」と対比している。新しい視点・感性か。越冬のため渡来した雁や、鳥の帰巢の描写は、今を生きる私にも秋の寂さと郷愁を感じさせる。
	『新古今和歌集』巻第四 秋歌上より3首	鎌倉初期 1200年頃	寂しさはその色としもなかりけり積立つ山の秋の夕暮れ(寂蓮)、心なき身にもあはれは知られけり鴨立つ沢の秋の夕暮れ(西行)、薄霧の籬の花の朝じめり秋は夕べとたれか言ひけん(藤原清輔)	寂蓮は秋の夕暮れの寂しさを、西行は渡来した鴨が立つ秋の夕暮れに「あはれ」を見出している。枕草子と共通する。一方、清輔は秋の夕暮れに批判的であり、「秋は夕暮れ」の美意識は一般化されていないと推測される。
	『源氏物語』若菜下 紫式部	平安中期	秋のあはれ、はた、かうやうなる物の音に、虫の声 籠り合はせたる、ただならず、こよなく響き添ふ心地すかし。… なつかしく物のとどのほることは、春の夕暮こそそこにはべりけれ	秋の「あはれ」を「虫の声」に見出し、春霞に触れながら、「春の夕暮」を「ことに」と評価している。秋の月が批判的に語られている。
	『新古今和歌集』巻第一 春歌上より1首	鎌倉初期 1200年頃	見渡せば山も霞む水無瀬川夕べは秋となに思ひけん(後鳥羽上皇)	霞む春の夕べの美を称えている。源氏物語に共通する。
比較・分析・整理を通じて分かったこと・表現したいことの要点等【メモ】				
・平安時代から鎌倉時代にかけて、日本人は、秋と言えば虫の音や風に「あはれ」を感じていた。(主)				
・枕草子が見出した秋の夕暮れは、新しい感性、美意識であり(仮説)、そこで表現された郷愁や寂しさは、現在の私たちにも通ずるものである。				
・秋の夕暮れに郷愁や寂しさを覚える私たちの感性(文化)は、『枕草子』を始めとする文学作品の影響を受けている。				

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]の「学習課題に沿って、言葉によって支えられている文化のよさや味わいを粘り強く吟味し、表現したいことを明確にしようとしている」状況を、「様々なワークシートを用いて日本文化のよさや味わいを粘り強く検討し、プレゼンテーションソフトを用いて、表現したいことを明確に伝えるという学習活動を振り返っている」姿(「おおむね満足できる状況」(B))と捉え、第3次に評価した。

一方、活動に対する単なる感想や学習活動の記録に留まる生徒に対しては、自らの学習の調整をしたか否かをワークシート④(振り返り)からは読み取ることができないことから、「努力を要する」状況(C)と評価した。Cと評価した生徒に対しては、Bを実現するための具体的な手立てとして、学習過程を振り返らせ、言語化させた。具体的には、以下に示したような振り返りをするに促し、その振り返りの過程で気付いた、次の単元の学習活動に生かしたい学びや改善したい課題も併せて、ワークシート④(振り返り)に記述し直すように助言した。

- ・第1次で得た、「文化」と「言語の役割」に関する知識は、第2や3次の活動にどのように生かすことができたか。
- ・イメージマップからL型マトリクス表へ、L型マトリクス表からプレゼンテーションソフトへと情報を整理し直す際にどのようなことに苦労し、どのように学習を調整して、問題を解決したか。
- ・イメージマップからL型マトリクス表へ、L型マトリクス表からプレゼンテーションソフトへと情報を整理し直す際に工夫したことは何か。

【单元名】 日本文化のよさや味わいを吟味しよう

() HR 氏名 ()

【本単元の言語活動】

言葉の働きによって創造・継承され、発展してきた日本文化のよさや味わいを吟味し、プレゼンテーションソフトでまとめる。

【活動1 文化を支える言葉の働き】

○文化とは何か。辞書等で調べたことを書き込もう。【個人】

●文化の継承・発展・創造の違いを確認しよう。【ペア】

【メモ】

○言葉（書き言葉・話し言葉）の働き（機能）を箇条書きしよう。【グループ・全体】

○文化の継承・発展・創造は、言葉のどのような働き（機能）によって支えられているか、具体例を挙げながら、自らの考えを記述せよ。

【単元名】 日本文化のよさや味わいを吟味しよう

（ ）HR（ ）番 氏名（ ）

【本単元の言語活動】言葉の働きによって生まれ、継がれ、発展してきた日本文化のよさや味わいを吟味し、プレゼンテーションソフトでまとめる。

【活動2 日本文化のよさや味わいを吟味する】

選択した日本文化 （有形・無形）

--

自由に分割してください。→ ↓		比較・分析の観点	
		成立年代	
比較対象			

比較・分析・整理を通じて分かったこと・表現したいことの要点等【メモ】

.....
.....
.....
.....

国語科 事例7（言語文化）「A書くこと」

「自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。」

単元名

自分の思いを相手に効果的に伝えよう

内容のまとめ

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「A書くこと」

1 単元の目標

(1) 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解できる。

〔知識及び技能〕(1)エ

(2) 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫できる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ

(3) 言葉がもつ可能性への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しながらクラスの魅力を伝える。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 (1)エ)	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。(A(1)イ)	自分の知識・体験の中から適切な題材を決定し、粘り強く吟味することを通して、表現したいことを明確にし、自分の思いが伝わるよう自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全5単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、「このクラスの魅力」について文章を書くという見通しをもつ。 ○ 小説「羅生門」の冒頭部を詩歌、随筆、戯曲に書き換える。（「ある日の暮れ方～雨のふるのを眺めていた。」）。 ○ ①詩歌、②随筆、③戯曲の担当に分かれ、書き換えを行う。 ○ 書き換え後、グループで発表し合い、原文の文脈を壊さないようにしながら他の種類の文章に書き換える際の注意点を相互に話し合う。 ○ 他のグループの作品を鑑賞する。 ○ 相手に効果的に伝えるためには、構成、展開、文体、描写等に注意すべきであることを知る。 ○ 自分たちの作品が効果的な構成、展開、文体、描写等であったかグループごとに話し合う。 ○ グループごとに、話し合った内容を発表する。 	[知識・技能]	「記述の点検」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題文を書く。 ○ 文章の種類を決定し、主題に沿って文章化する。 ○ 三人一組になり、完成した作品を回し読みした後、自作を解説する。選択した文章の種類に基づいた効果的な構成や表現であったかを話し合う。 ○ 話し合いメモも参考にしながら作品を完成し、共有ファイルに入力する。 	[思考・判断・表現]	「記述の分析」
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共有ファイルに保存された作品を互いに鑑賞し、評価する。 ○ 振り返りシートを記入し、単元で得た学びを確認する。 *後日、紙媒体の作品集に製本する。 	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、「このクラスの魅力」について文章を書くという見通しをもつ。 ○ 小説「羅生門」の冒頭部を詩歌、随筆、戯曲に書き換える。（「ある日の暮れ方～雨のふるのを眺めていた。」）。 ○ ①詩歌、②随筆、③戯曲の担当に分かれ、書き換えを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間のクラスメイトとのクラスづくりを振り返り、クラスにはどのような魅力があるかを互いに伝え合い、その魅力を再認識し、次年度のクラスづくりに生かす活動であることを確認する。 ・詩歌は短歌、俳句、詩、漢詩など自由とする。 ・戯曲には馴染みのない生徒もいるので、他の作品を紹介する。 ・原文の文脈を壊さないようにしながら読み手に効果的に伝えるためにはどのような工夫が必要か確認し、注意を促す。 ・①、②、③をそれぞれ担当する生徒に分け、グループを作る。（各グループ三人） 	<p>[知識・技能]</p> <p>「記述の点検」共有ファイルに保存されたデータ文書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解しているかを点検する。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書き換え後、グループで発表し合い、原文の文脈を壊さないようにしながら他の種類の文章に書き換える際の注意点を相互に話し合う。 ○ 他のグループの作品を鑑賞する。 ○ 相手に効果的に伝えるためには構成、展開、文体、描写等に注意すべきであることを知る。 ○ 自分たちの作品が効果的な構成、展開、文体、描写等であったかグループごとに話し合う。 ○ グループごとに、話し合った内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き換えはパソコン、タブレット端末を使用させ、共有ファイルに保存するよう指示する。 ・話し合いの内容を他グループに伝えられるようにまとめことを伝える。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解させる。 ・共有ファイル内の作品を鑑賞させる。 ・構成、展開、文体、描写等について教員が説明する。 ・自分たちの作品を振り返り、どのような構成や文体等にすればさらに良くなったかを確認させ、注意点としてまとめるよう促す。 ・文章の種類に応じた構成、展開、文体、描写、文脈等についての注意点を発表させる。 ・聞き手には簡単にメモを取らせる。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題文を書く。 ○ 文章の種類を決定し、主題に沿って文章化する。 ○ 三人一組になり、完成した作品を回し読みした後、自作を解説する。選択した文章の種類に基づいた効果的な構成や表現であったかを話し合う。 ○ 話し合いメモも参考にしながら作品を完成し、共有ファイルに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのどのような点が魅力なのか、主題文を決定することを説明する。（「このクラスの魅力は○○だ。」） ・前次に理解した詩歌、小説、随筆、戯曲の特徴を踏まえた上で文章の種類を決定するよう指示する。 ・相手に効果的に伝わるように構成、展開、文体、描写、文脈等に注意するよう促す。 ・作品はパソコン、タブレット端末を使用させ、共有ファイルに保存するよう指示する。 ・話し合いの内容をメモし、作品の改善に生かすよう促す。 	<p>[思考・判断・表現] 「記述の分析」共有ファイルに保存されたデータ文書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しているかを分析する。

3	<p>○ 共有ファイルに保存された作品をお互いに鑑賞し、評価する。</p> <p>○ 振り返りシートを記入し、単元で得た学びを確認する。 *後日、紙媒体の作品集に製本する。</p>	<p>・パソコン、タブレット端末から共有ファイル内の作品を相互に鑑賞させるとともに評価シートを使用して評価するよう指示する。</p> <p>・次回の書く活動に向けて、今回の単元での学びをどのように生かすかを記入させる。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度]「記述の分析」<u>アンケートデータ機能によるデータ</u></p> <p>・自分の知識・体験の中から適切な題材を決定し、粘り強く吟味することを通して、表現したいことを明確にし、自分の思いが伝わるよう自らの学習を調整しようとしているかを分析する。</p>
---	--	---	---

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] の「文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している」状況を、「原文の文脈を壊さないようにしながら、他の文章の種類に書き換えて文書ファイルに入力している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第1次に評価した。

例えば、戯曲を担当した生徒Dは、【共有ファイルの記述の一部】において、『自分が生きる意味は何なのか』と誰に対すともなくつぶやく。」と羅生門の下で下人が雨のやむのを待つ場面において、原文には明記されない主人公の心情を現在の状況や今後の展開を踏まえながら、文脈を壊すことなく書き換えていたことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

また、詩歌を担当した生徒Eは、【共有ファイルの記述の一部】において、「荒れ果てて 顧みられず 羅生門」と羅生門の状況を俳句に書き換えた。羅生門の状況描写に特化してしまい、荒れ果てた羅生門の下でなぜ下人が雨やみをしなければならぬのかという次の段落への展開を踏まえる原文の文脈が捉えられておらず、その点が不十分であった。このことから、原文の文脈の流れが踏まえられていないと判断し、「努力を要する」状況（C）と評価した。Cと評価した生徒に対しては、この後の展開を踏まえた時に俳句に盛り込まなければならない内容を再検討することと、季語が欠落していたので、場面から季節を推測するよう助言した。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] の『書くこと』において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している」状況を、「自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫して、クラスの魅力を文書ファイルに入力している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。

例えば、生徒Fは、「このクラスの魅力は一致団結する力だ」という「主題文」に沿って入力した【共有ファイルの記述の一部】において、「青春の ダンスを踊り 文化祭 クラスの力 ここに示せり」という文化祭の一シーンを感じさせる短歌を作ったが、その後三人一組になって完成した作品を回し読みした際に、生徒Gからは「一致団結という様子があまり伝わらない」、生徒Hからは『文化祭』が真ん中に挟まれることで、クラスのどの活動の場面かスッと頭に入ってこなかった」とのコメントをそれぞれから受け、「文化祭 みんなの息を 重ね合い ここに極める 我らがダンス」と「一致団結」する要素を追加するとともに、クラスのどの場面のことが明確になるよう言葉を入れ替え、「主題文」の内容にさらに沿った作品へと修正した。これらから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]の「自分の知識・体験の中から適切な題材を決定し、粘り強く吟味することを通して、表現したいことを明確にし、自分の思いが伝わるよう自らの学習を調整しようとしている」状況を、「知識や体験の中から適切な題材を決定し、粘り強く吟味することを通して、表現したいことを明確にし、自分の思いが伝わるよう自らの学習を調整し、クラスの魅力を文章化したかどうかについて振り返り、アンケートデータ機能を用いて入力している」姿(「おおむね満足できる」状況(B))と捉え、第3次に評価した。

文章の意味は、文脈の中で形成されることへの理解度、自分の思いを効果的に伝えるための工夫、この単元を振り返っての課題や次回の「書く」活動に向けて今回の取り組みをどのように生かすかの3点を評価した。

例えば、【生徒Iのアンケートデータ機能による振り返りシートの記述】内での、「下人の置かれた場所の問題だけではなく、この後の展開を考慮すると、無音の中にあえて蟋蟀の鳴き声を響かせた方がひとりぼっちの下人の心情がより効果的に表せることに気付いた」(傍線部)との記述から文脈を考慮した上での文章表現の重要さに気付いている。また、「風景描写を効果的に生かす小説ならではの作品になったのだとうれしくなった」(波線部)とクラスの魅力を効果的に伝えるために、風景描写を巧みに利用したことや文章の種類を小説にすることの意義にまで言及していた。さらに、「できあがった作品を友人に読んでもらい評価を受けたが、こちらが想定したように読んでくれた部分とこちらの想定とは違う読み方をされた部分があった。この評価を参考に、次回の活動では相手に効果的に伝わるよう文脈に気をつけながら書きたい」(二重傍線部)との記述が見られた。これらから、自分の思いが効果的に伝わるように展開や文脈に気をつけ、粘り強く試行錯誤しながら推敲した今回の取り組みを次回に生かそうとする意欲を読み取ることができた。こうしたことから、評価規準を満たしていると判断し、「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

【生徒Iのアンケートデータ機能による振り返りシートの記述】

文脈の重要さで気付いたことや理解したこと
原文を戯曲に書き換えた際に、羅生門周辺には下人以外誰もいないので、その様子を『無音』であると記述した。しかし、実は蟋蟀が一匹いることに後から気づき、下人の置かれた場所を効果的に表すために蟋蟀をどう生かすかに悩み、結局『蟋蟀が円柱にとまっている』と原文と同じ描写にしてしまった。他の人の書き換えを読み、改めて考えてみると <u>下人の置かれた場所の問題だけではなく、この後の展開を考慮すると、無音の中にあえて蟋蟀の鳴き声を響かせた方がひとりぼっちの下人の心情がより効果的に表せることに気付いた。</u>
自分の思いを効果的に伝えるために工夫したこと
風景描写の中に、次の展開の伏線や象徴を入れてみたところ、できあがった作品を読んだ他の生徒から「何気なく読み飛ばしていたゴミ箱の描写に、実は自律したクラスの在り方がさりげなく象徴化されていたことが最後に明かされて驚いた」という感想をもらい、 <u>風景描写を効果的に生かす小説ならではの作品になったのだとうれしくなった。</u>
単元の学びを振り返って(課題や今後に向けて)
……………頭の中で考えていた構想も、いざ書こうとする段になると自分の伝えたいことの文脈がねじれてしまい、どの順番で書いていけば自分の思いが読み手に効果的に伝わるかを何度も再考した。何とか <u>できあがった作品を友人に読んでもらい評価を受けたが、こちらが想定したように読んでくれた部分とこちらの想定とは違う読み方をされた部分があった。この評価を参考に、次回の活動では相手に効果的に伝わるよう文脈に気をつけながら書きたい。</u>

国語科 事例8 (言語文化)「B読むこと」

「作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。」

単元名

叙述から、筆者のものの見方・感じ方・考え方を読みとろう

内容のまとめり

〔知識及び技能〕(2)我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「B読むこと」

1 単元の目標

(1) 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

(2) 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

古文の文学的な文章を読み、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方についてワークシートにまとめたり、グループで話し合ったりする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 (2)ア	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(B(1)イ)	文章に表れているものの見方、感じ方、考え方について、グループでの話し合いをもとに、自分の考えをレポートにまとめる活動を通して、積極的に学習に取り組む、我が国の言語文化の特質について理解を深め、学習課題に沿って、自分のものの見方、考え方、感じ方を広げようとしている。

4 指導と評価の計画（全7単位時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、「作品に表れる作者のものの見方、感じ方、考え方を読みとる」という学習の見通しをもつ。 ○ 日記の役割、仮名による表記の獲得等、当時の状況を理解する。 ○ 従来の記録的な日記とは異なる、「日記文学」という新しいジャンルの創造としての「土佐日記」という作品の文学的価値について理解する。 	[知識・技能]	「記述の確認」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品「門出」を取り上げ、登場人物や情景に関する叙述をもとに、登場人物の特徴や描かれ方、人間関係について、個人でノートにまとめる。 ○ 作品「帰京」を取り上げ、前半と後半の心情をそれぞれ確認した上で、作者の心情変化について気がついたことを個人でノートにまとめ、まとめた内容を基にグループで話し合い、ワークシートにまとめる。 ○ 個人でまとめた内容を基に、作者の「ものの見方、感じ方、考え方」について、ワークシートにまとめる。 	[思考力・判断力・表現力]	「記述の確認」
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ活動で共有したことを参考にして、作品に表れる作者の「ものの見方、感じ方、考え方を読みとる」という課題について、作品の中から自分で着眼点を定めて、レポートをまとめる。 ○ レポートの「振り返り」欄に、単元を通して得た学び等について記述する。 	[主体的に学習に取り組む態度]	「記述の分析」

【単元の流れ】

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や進め方を確認し、「作品に表れる作者のものの見方、感じ方、考え方を読みとる」という学習の見通しをもつ。 ○ 日記の役割、仮名による表記の獲得等、当時の状況を理解する。 ○ 従来の記録的な日記とは異なる、「日記文学」という 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の私的な「日記」は、母語をそのまま表記する文字を獲得したことにより可能となったことに気がつくように、資料等を提示して理解を深めさせる。 ・国語便覧等を用いて、万葉仮名と平仮名表記の違い等を確認させる。 ・文学史年表等を用いて、「土佐日記」の文学的価値について確認 	[知識・技能] 「記述の確認」 <u>ワークシート</u> ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解しているかを、ワークシートで確認する。

	新しいジャンルの創造としての「土佐日記」という作品の文学的価値について理解する。	させる。また、平安時代の日記文学についても確認する。	
2	<p>○ 作品「門出」を取り上げ登場人物の特徴や人物の描かれ方、人間関係について、個人でノートにまとめる。</p> <p>○ 作品「帰京」を取り上げ前半と後半の心情をそれぞれ確認した上で、作者の心情変化について気がついたことを個人でノートにまとめ、まとめた内容を基にグループで話し合い、ワークシートにまとめる。</p> <p>○ 個人でまとめたノートの内容を基に、作者の「ものの見方、感じ方、考え方」について、ワークシートにまとめる。</p>	<p>・人物相互の人間関係を把握するために、必要な語句の意味、文語のきまりを確認する。</p> <p>・必要に応じて文脈上の意味や和歌の修辞法などにも注意しながら、内容を捉えるように促す。</p> <p>・登場人物の人間関係を適切に把握するためには、どのような点に注意して作品を読む必要があるのかについて、個人で考えさせる。</p> <p>・現代語訳を適宜取り入れ、生徒が古典に抵抗感を抱かないように配慮する。</p> <p>・本文中の心情表現や情景描写等に注目させる。</p> <p>・話し合いの際には、効果的な話し合いになるよう、ワークシートに書いた自分の記述を基に発表するように促す。</p> <p>・自分と違う意見については必ずメモをさせ、自分のものの見方考え方が広がるように促す。</p> <p>・本文全体を読み返し、筆者のものの見方、感じ方、考え方が表れている箇所を線で引かせ、どのようなものの見方等をしているかワークシートにまとめさせる。</p>	<p>[思考力・判断力・表現力] 「記述の確認」ワークシート</p> <p>・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているか確認する。 ※最終的には、第3次に総括的に評価する。</p>

3	<p>○ 作品に表れる作者の「ものの見方、感じ方、考え方を読みとる」という課題について、作品の中から自分で着眼点を定めて、レポートにまとめる。(第2次のグループの話し合いで共有したこと等を参考にする。)</p> <p>○ レポートの「振り返り」欄に単元を通して得た学び等について記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が着眼点を見つけられるように、筆者の感性や感情が描かれている箇所などに注目するよう促す。 ・レポートにまとめる際には、必ず本文の叙述を根拠にして書くように指導する。 ・振り返り欄には単元を通じて考察したことについて、目標にそって振り返るよう促す。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>「記述の分析」レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章に表れているものの見方、感じ方、考え方について、グループでの話し合いをもとに、自分の考えをレポートにまとめる活動を通して、積極的に学習に取り組み、我が国の言語文化の特質について理解を深め、学習課題に沿って、自分のものの見方、考え方、感じ方を広げようとしているかを分析する。
---	--	--	---

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] の「我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。」状況については、「万葉仮名と平仮名の表記方法の違いや歴史的な背景を具体的に理解し、当時の日記の役割や『土佐日記』という作品の文学的価値について理解している」姿を「おおむね満足できる」状況(B)」と捉え、第1次に評価した。評価にあたっては、ワークシート(作業シート)を生徒に配布し、記述の確認を行い評価した。

【生徒Dのワークシート(作業シート)の記述例(一部)】

「万葉仮名」「ひらがな」の表記の違いを確認しよう。

山上憶良の「銀も金も」の和歌について、「万葉仮名」と「ひらがな」で、それぞれ書いてみよう。(国語便覧にあります)

・「万葉仮名」

銀母 金母玉母 奈尔世武尔

麻佐礼留多可良 古尔斯迦米夜母

・「ひらがな」

しろがねも くがねもたまも

なにせむに

まさされるたから こにしかめやも

・山上憶良の歌を「万葉仮名」と「ひらがな」を両方で書いて気付いたことを書こう。

自分の思いを漢字だけで書くのは少し堅苦しく難しいなと思った。和歌はひらがなで書くのがいいと思った。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] については、第1次で確認した[知識及び技能]を活用して、作品や文章に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているかどうか、その力を身に付けているかどうかを評価した。その際、第2次ではワークシートを用いたが、第3次のレポートの記述の分析も含めて、総括的に評価することとした。

『読むこと』において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。」状況を、「作者の心情表現について、個人で気付いた内容を基にグループで話し合い、それを踏まえて作者の『ものの見方、感じ方、考え方』について、自分の考えを深めている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第2次に評価した。なお、教師が評価する際に、生徒の思考の過程が分かるようなワークシートとした。

【生徒Eワークシート（作業シート）の記述例（一部）】

<p>作者の心情について</p> <p>・「門出」の場面</p> <p>作者はどのような人物として描かれているか。本文から読み取れることを書こう。</p> <p>作者が土佐を離れるにあたって、多くの人に旅立ちを見送られ、人々は名残惜しそうに遅くまで騒いでいた。このことから、作者は人望があり多くの人に好かれていた人物であることが分かる。</p> <p>・「帰京」の場面</p> <p>作者の心情について時間に沿ってまとめよう。</p> <p>京都の町に到着して嬉しく思った。</p> <p>←</p> <p>荒れ果てた自宅を見たときは、管理をお願いしていた隣人を薄情だと思った。でもお礼はしようと思った。</p> <p>←</p> <p>荒れ果てた庭に新しい小松が混ざっているのを見て、死んだ娘を思い悲しく思った。</p> <p>←</p> <p>心が通じ合っている妻と和歌を詠んだが、簡単に忘れられるものでなく、心が慰められなかった。</p>	<p>「門出」の場面</p> <p>土佐の国司の任期を終えた作者が船で旅立つ前に、送別の宴をしてもらう場面</p> <p>登場人物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者 ・人々（長い間親しくしていた人々） ・藤原のときざね ・八木のやすのり ・講師
<p>「帰京」の場面</p> <p>土佐から久しぶりに京都の家に帰ってきた場面</p> <p>登場人物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者 ・お供の人々 ・船人 ・子 ・心が通じ合っている人（妻） 	

（3）[主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]については、「文章に表れているものの見方、感じ方、考え方について、グループでの話し合いをもとに、自分の考えをレポートにまとめる活動を通して、積極的に学習に取り組み、我が国の言語文化の特質について理解を深め、学習課題に沿って、自分のものの見方、考え方、感じ方を広げようとしている。」状況を、「作者のものの見方、感じ方、考え方や我が国の言語文化の特質について粘り強く検討し理解を深め、自分のものの見方、考え方、感じ方を広げながらレポートにまとめている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3次で評価した。生徒Fのレポートは、作者の隣人に対する態度や家の中に小松を見つけたときのふるまいから、作者のものの見方や考え方を結びつけて読み取ろうとしており、また、当時の人々にとっての「和歌」の存在についても的確に捉え書いていることから、「おおむね満足できる」状態（B）と判断した。一方、作者の帰京の際の行動や発言についてただ単に感想を述べるにとどまり、自らの学習を振り返ることができていない生徒については、「努力を要する状況」（C）と判断した。Cと判断した生徒については、グループでの話し合いや、ワークシートの記述を振り返り、作者の帰京の際の心情の変化等について本文をもう一度読んで確認させ、作者のものの見方考え方が現れている箇所についてもう一度まとめて確認するように助言した。最後に、この単元で学習したことを今後の学習や生活につなげるように助言した。

【生徒Fのレポート】

「作者の自制心」

京都の自宅にやっとの思いで帰ってきた時に、隣人に管理を頼んでいた自宅がひどく壊れていたことは、作者にとって本当に悲しいことだったと思う。それなのに、文句を言おうとする部下をなだめていて、さらに「隣人にお礼はしよう」と思っている。私はこのようなことは絶対に出来ないし、隣人に対してたくさん文句を言ってしまおうと思う。作者は、自制心があつて、本当に大人だなあと考えた。

そんな作者も、庭に生えていた小さな松を見つけたら、思わず心が揺さぶられてしまった。荒れ果てた庭の中でも「小松」という新しい命を発見し、自分が娘を亡くしたという事実を痛感し、思わず悲しくなってしまったのだろう。隣人に対しては感情を抑えて落ち着いて対応していた作者も、子供のことになるとう自分の気持ちを抑えられなくなってしまったのだろう。そばにいた妻と和歌を詠み交わす場面は胸が熱くなった。

この時代の人は自分の心がどうしようもなくなってしまうときは和歌を詠んで、そうやって心を慰めていたのだろう。現代に生きる私とは違うなと思った。

【国語部会作成委員】

鎌田 幹子	宮城県教育庁高校教育課指導主事
伊東 秀輝	宮城県仙台第三高等学校主幹教諭
谷島 潤一	宮城県仙台二華高等学校教諭
小野寺克暢	宮城県泉松陵高等学校教諭